

61

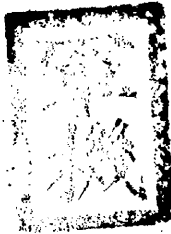
別記11

機密水雷部隊命令作第四號

昭和十八年七月五日作戰地旗艦阿武隈

水雷部隊指揮官 木村 昌福

70



水雷部隊命令

機密北方部隊命令作第一五號及同第一六號ニ依ル鳴神島
守備陸海軍部隊ノ撤收實施要領左ノ通定ム
第一作戰方針

水雷部隊(收容部隊)ハY日(艦隊所定)幌筵出島途
中友軍部隊ノ協力ニ依リ極力海霧ヲ善用シ行動隱密
企圖ノ秘匿ヲ主眼トシ乙日(Y日)鳴神港ニ進入撤收部隊
ヲ收容急速幌筵ニ歸投セントス
情況ニ依リ断乎抵抗ヲ一蹴脱過シ極力目的ノ貫徹ヲ期

又

第一軍隊區分

第一軍隊區分 (幌造出港 ↓ 鳴神港入港マデ)

應急收容隊	補給隊	警戒驅逐隊	收容驅逐隊	巡洋艦部隊	區分
栗田丸船長	日本丸指揮官		1009 司令	本職	指揮官
栗田丸	日本丸、國後	島風、五月雨、長波、若葉、初霜	1009 郷音	阿武隈、木曾	兵
應急收容	補給要るハ應急收容	護衛警備要るハ收容	同 旨	撤収員收容	任 務

二 第二軍隊區分 (鳴神港入港 ↓ 幌造着迄)

記事	第一編制	第二編制	第三編制	第四編制	職	本	指揮官	第一輸送隊	第二輸送隊	第三輸送隊	第四輸送隊	
	各輸送	隊内	先任指	指揮官				夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲
一 ◎ 印公護衛艦 二 第三第三(第四)編制に於ては損傷艦ノ護衛艦ヲ特令ナケルモ若菜(若菜初霜トス) 三 第五編制以下の場合各輸送隊に託載錨地別に編制し輸送隊ノ護衛艦ト特令ス	第一編制	第二編制	第三編制	第四編制	AB I各錨位艦	D C各錨位艦	E, F, S各錨位艦	G H各錨位艦	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲
	第一輸送隊	第二輸送隊	第三輸送隊	第四輸送隊	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲
	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲
	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲	夕雲風雲

第三、速力區分

原速 十二節 半速 九節 微速 七節 強速 十六節

一戰速以上一水戰所定區分

第四、各隊(艦)ノ行動

一 幌筵出出時ヨリ鳴神島マデ

(1) Y日一二。迄ニ第十一錨地ニ集合(錨地別令)

(四) 五月兩長波夕雲風雲秋雲若葉初霜ハ掃蕩隊トナリ

先任指揮官之ヲ指揮シ一五三。以後幌筵出出時附圖第五指

定ノ外指揮官所定ニ依リ幌筵海峽南方ノ對潜探信掃蕩

ヲ實施シタル後一九四五頃東磐城水道内方ニ於テ當隊ニ合

同第二警戒航行序列ニ占位スルヤ行動ス

右對潜掃蕩中敵潜ヲ探知セバ所要ノ艦ヲ殘シ當隊出出

マテ徹底的ニ攻害制圧スルモトス

尚掃蕩隊出雲後霧來襲セバ視界ノ狀況ニ依リ各隊編
 隊ニテ附圖所定ノ長波線風雲線若葉線ヲ掃蕩シ或ハ
 視界極メテ狭シテラバ水道内ニ皎投スル等掃蕩隊指揮官所
 定ニ依リ適宜行動スルモトス

(ハ) 掃蕩隊ヲ除ク各艦ハ一九〇〇島風阿武隈木曾栗田丸
 日本丸國後九驅響ノ順序ニ出雲一九四五頃掃蕩隊ニ
 合同第二警戒航行序列トナシニ〇〇A真(附圖第五)
 ニ於テ針路一八〇度速力十五節トナス

(ニ) 爾後概テ附圖第一予定航路ノ東進 乙二日〇八〇頃ヨリ驅
 逐隊(情況ニ依リ巡洋艦)ハ補給ヲ實施ス

(ホ) 乙一日午前薄雲細音若葉初霜、第二回補給ヲ實施シ
 タル後一二〇。補給隊ヲ一八〇。栗田丸ヲ介離爾余各隊
 (艦)ハ乙日〇一〇。第四警戒航行序列トナシ針路三〇度速

力十八節ヲ以テ一路鳴神島ニ向ヒ情况変化ナケレバ乙日一六三
 〇頃鳴神港へ泊リ予定

(ハ) 補給隊(日本丸(國後)) 應急收容隊(栗田丸)ノ行動

(一) 補給隊ハ乙日二一〇〇令ニ依リ解列後附圖第一第二待機
 線ニ於テ待機シ收容部隊ノ補給(收容部隊ガ〇五頃引返
 ス時ハ且乙頃ヨリ實施施〇六以後引返ス場合ハ〇五頃ヨリ實
 施)ニ備フ會合ハ無線ヲ用ヒズ水雷部隊ヨリ合同スルヲ以
 テ補給隊ハ予定通(〇五頃以後ハ針路二三〇度十一節)行動
 スルモトス

收容部隊鳴神島着ヲ受信スルガ式ハ10頃日ニ至ルモ同隊ト
 合同セザル時ハ第一待機線迄〇六頃マテニ第二待機線ニ至リ
 ノ補給ニ備ヘ同隊ノ補給終了スルカ或ハ同隊司令ヨリ補給
 ノ要ナキ通報ヲ得ル時ハ單獨幌燈ニ收掃スルモトス(947ト

ウ合同法ハ前記ニ同じ

(二) 粟田丸ハZ-1日一八〇。令ニ依リ解列後附圖第一所定待機線ニ於テ待機シ收容隊ノ應急收容ニ備ヘ特令ニ依リ待機線允
 単独幌進ニ敢投スルモノトス

應急收容ヲ要スル艦トノ會合ハ無線ヲ用ヒズ當該艦ヨリ
 合同スル如ク行動スルヲ建前トシ粟田丸ハ所定通り行動シテ
 可ナルモ去ヲ得ザル場合長波輻射其他通信ヲ要求スル場
 合アルニキ電波待受ハ常時注意ヲ要ス

(ハ) 鳴神島ニ近接シ無線方位測定及一〇〇尋水深界トニ依リ艦
 位ヲ確認シツツ同島ノ西岸ニ近接爾後視界ノ狀況許ス限り
 接岸航路(附圖第三)ヲ執リ同島周邊ノ敵艦艇(特ニ霧
 中電探射虫)ニ對シ警戒ヲ嚴ニシツツ同島北辺ヲ廻リ鳴神
 港北東ニ於テ電波誘導装置ノ活用等ニ依リ位置確認ヲ上

二 輸送隊入泊

警戒隊ヲ分離收容隊ハ鳴神港ニ入泊ス（各艦錨地附圖第三）

(1) 鳴神島北方ヲ廻リタル後ハ視界良好ニシテ海岸線ヲ視認シ得ル状況トラバ平左即岩東方ヨリ針路ニ五度ニテ接岸航路（附圖第四）ヲトリ視界不良ニシテ陸岸ヲ視認シ得ザル時ハ針路一合度ニテ成ル可ク速ニ誘導電波帯ニ入り爾後概ネ二三一度ニテ鳴神港口ニ向針ヲ予定

(2) 陸岸式ハ誘導電波ニ依リ入港法確認後各艦ニ依リ警戒隊ヲ解列セシム

(3) 輸送隊ハ當時ノ航行順序ニ先頭艦嚮導シ港内ニ進入予定錨地（附圖第三）ニ入泊スルモノトス

(4) 航路標識（港目標等）（附圖第三）

(5) B、D、E、G 錨地入泊艦ノ（港目標）ハ×ノ夫ノ圖示方位線

上ノ砂浜ニ設ケアリ (B、G、目標ハ夫ニ本部及小浜信号灯ト一線ニ在リ)

(二) 右以外ノ錨地ハB、D、E、Gハ白艦ヲ基準トシテ入白スルモノトス
 左ノ港内余積狹隘ナル為第二列ハ白艦ハ第一列ノ艦ノミトラス
 左右艦トノ關係位置ヲモ考慮シ適宜修正スルモノトス

(三) 各錨地共錨位ピケットトシテ錨位附近 (附圖第三記載位置附近)ニ收容員 (約二三〇名)ヲ乗セタル大筏 (各錨地ニ相備スル信号旗ヲ掲揚)ヲ待機セシメアリ

(四) 港内ハ沈没商船日産丸以外ハ航行ニ支障アル障碍物ナシ
 (但シ投錨ハ各六五潜鹿野丸錨及不知火船沈下位置ハ避クルヲ可トス尚各種浮標ハ沈没セシメアリ)

(五) 其他航路標識

附圖第三記載ノ通

(ホ) S 錨地へ泊艦ハ他艦トノ關係ナク自艦ノ係安ヲ考慮シ S 附近ニ投錨スレバ可ナリ

(ハ) 入泊ニ関スル規約信等

(一) 港口附近ニ於テ松ヶ崎及小鳴神島ヲ視認シ得ザル時入泊艦ハ「サイレン」又ハ喇叭ニテ見張所ヲ指呼ス (松ヶ崎「マ」小鳴神「ヨ」) 松ヶ崎小鳴神島ニテ之ヲ聴知セバ喇叭ニテ自己名「マ」ヨ」ヲ以テ之ニ應答ス

(二) 松ヶ崎小鳴神島 (S 砂浜北方) 見張所ハ視界不良ナル場合入泊艦ヲ認メタル時ハ時々自己名「マ」ヨ」ヲ發ス

(三) A、D、E、G、S 錨地へ泊艦入港目標及待機大発ヲ視認シ得ザル時ハ喇叭或ハ「サイレン」ヲ以テ自己錨地名ヲ發シ入港目標砂浜ヲ指呼ス 指呼サザル砂浜ハ同一符号 (喇叭) ヲ以テ之ニ應答ス

三、撤収員ノ収容

66

(四) 撤収員ハ外套着用(帯剣許可)ノミテ一切ノ器具携帶品無ク輕装

第六編制	第五編制	第四編制	第三編制	第二編制	第一編制	種別	編制	情況
XX2	XX1	CX2 損傷場合	木曾 損傷 場合	阿武隈 損傷 場合	損傷 場合			損傷 場合
令入	若菜 護衛 令入	初霜 令入	若菜	若菜	若菜	損傷 艦	警戒	警戒
損傷場合 特令 無キ 長波 五月 雨 島風 順序 損傷		雲夕 (660)	雲夕 (480)	雲夕 (550)	雲夕 (480)	A	錨地 (一) 収容員数	島風 初霜
		雲風 (660)	雲風 (480)	雲風 (550)	雲風 (480)	B		島風 初霜
		雲秋 (660)	雲秋 (480)	波長 (550)	雲秋 (480)	C		島風 初霜
		風鳥 (660)	風鳥 (1200)	雨五 (450)	風鳥 (1200)	D		島風 初霜
		雲朝 (560)	雲朝 (560)	雲朝 (480)	雲朝 (480)	E		島風 初霜
		雲暮 (560)	雲暮 (560)	雲暮 (480)	雲暮 (480)	F		島風 初霜
		雨五 (480)	雨五 (480)	曾木 (1200)	曾木 (1200)	G		島風 初霜
		波長 (560)	波長 (560)			H		島風 初霜
				雲秋 (540)		I		島風 初霜
		SSP 音 (420)	SSP 音 (420)	SSP 音 (420)	SSP 音 (420)	S		島風 初霜

(五) 收容隊及警戒隊ヲ各艦被害ノ状況ニ依リ第一乃至第六編制ニ別テ各種編制ニ於ケル收容艦ノ搭載員数ヲ通リ決定ス
各種情況ニ應ズル收容隊ノ編制種別及各種艦搭載員数

ニテ乗艦ス

(1) 撤収員収容ノ各艦ニテ準備スベキ事項

(2) 項収容標準ノ最大員数ヲ収容シ得ル様研究準備ヲナス(収容場所ハ露天甲板ヲ除キ上甲板以下トシ戦斗力ヲ棄揮ニ差支無キトヲ要ス)

(3) 携行舟艇

(1) 夕雲 風雲 秋雲 朝雲 薄雲 響 長波 各大舟一隻(艇員(定員七名中五名燃料艙陸軍派出))

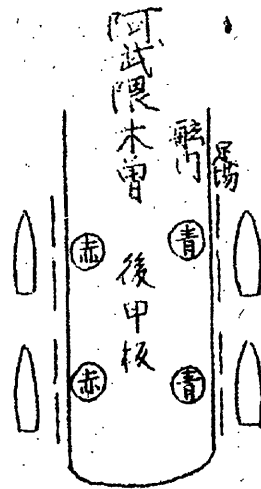
(2) 阿武隈 五月雨 各小舟二隻 木曾 小舟一隻(艇員(定員五名中五名燃料同右))

(3) 各驅逐艦(除島風)折置舟五個(艇員自艦派出)

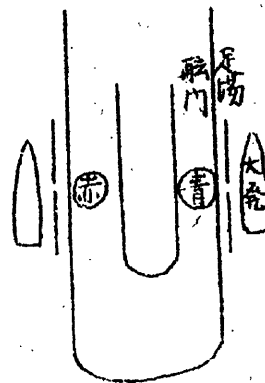
(4) 撤収員乗艦用足場

(1) 足場八艦隊ニテ作製ス各艦ニ四個(阿武隈 木曾 個)ヲ供給ス

(2) 投錨ト同時ニ右足場ヲ左、通二両舷ニ準備



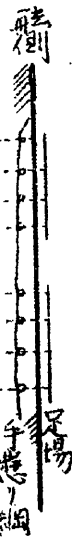
駆逐艦



○ 大砲一隻ニ足場二個

○ 足場ノ上甲板固縛ハ強度充分ナルコト

○ 上甲板ニ手懸リトシテ左、通準備



足場ノ固縛

○ 大砲達着箇所ヲ示スヌ夜(晝)向ハ右舷青灯(青旗)左舷
 赤灯(赤旗)矣出コト

四) 撤収員ノ食事

(1) 撤収員ノ食事(約ヒ食)ハ主食ヲ乾麴麴トシ各乗船ニ準備ス

(2) 其ノ他艦隊ヨリ若干ノ固形糧食ヲ供給セラルトアリ但シ予ノ懸

ルモノハ敵ノ圏外遊退後ニ支給シテ可ナリ

(五) 其ノ他艦内施設及敵情ニ依リ適宜實施スルモノトス

(二) 使用母艇

(一) 阿武隈自艦小舟二隻現地大舟四隻

(二) 木曾自艦小舟一隻現地大舟四隻

(三) 驅逐艦自艦大舟一隻現地大舟一隻計二隻

◎ 各艦共右母艇ヲ以テ約二往復ヲ收客終了ノ予定

(四) 五月兩長波大小舟ハ入自スル場合ノミ使用ス

(五) 各艦折置母ハ大舟ノ予備トシテ使用ス

(六) 投錨前予メ大舟小舟卸方準備ヲ完成シ投錨後直ニ泛水シ自艦

收容員ノ乗艇スベキ砂浜(附圖第三錨地自己錨地名ト同一箇所)ニ派
出ス

(ハ)投錨ト同時ニ待機大砲ハ横付テ第一回撤収員ヲ收容ス
(イ)霧中(夜間)收容作業中各艦ハ自己位置ヲ表示スルタメ左ノ標識
及信号ヲ使用スルモトス

(ニ)探照灯ヲ以テ所要方向ニ自己錨地名ヲ連送(方向信号灯ヲ連送)
(三)事業灯或ハ投光器ヲ作業甲板ニ準備(港口附近ニ老芒指回セヨト)
(四)晝間(視界ノ大小ニ拘ラス)後橋ニ自己錨地信号旗ヲ掲揚ス
(五)極力乗艇時間ヲ短縮シ圖リ撤収員ニシテ所定以外ノ携行品ヲ有ス
モノアラハ各艦指揮官ハ之ヲ海中ニ投棄セシムコトヲ得

(六)現地陸海軍乗艇監督者、各艦毎ニ定メアリ)ヨリ乗艇終了ノ通
報ヲ得ハ之ヲ各輸送隊指揮官ニ報告ス

(又)自艦ノ收容終了使用大砲小砲ハ艇栓ヲ抜き或ハ其他適當ナル手

段(各火砲小砲ニ鶴嘴一挺宛陸軍側ヲ搭載)ニ依リ之ヲ連三脱没

セム

(山)各艦人員收容火砲処分完了ニ付整備ヲ各輸送隊指揮官ニ報告シ各輸送隊指揮官ハ之ヲ取纏メ先任輸送隊指揮官ニ報告ス

(一)輸送隊ノ編制ハ第二軍隊區分ニ示ス

四 鳴神港外警戒隊行動

(一)輸送隊解列後警戒隊ハ先任指揮官ニテ指揮シ附圖第四所定警

戒線上ヲ單縱陣ヲ以テ警戒航行シ港外ノ對階警戒ニ任ス

(二)情況ニ依リ右警戒線ヲ西方ニ若干移動スルモ差支無キモ輸送隊出港

セハ原警戒線ニ復歸スルヲ要ス

(三)警戒隊ノ一艦(特令ナケレバ初霜)ハ輸送隊解列時ニ之ニ續行下錨

地(附圖第三)ニ假泊港口警戒ニ任ス

(四)警戒航行中ノ對敵警戒及戰鬥要領

69

- (一) 警戒隊各艦ハ警戒航行中特ニ見浪ノ嚴ニ敵ヲ発見セ即時砲撃(夜間ハ照射砲撃)ヲ以テ警戒報ス(信号及電話併用)
 - (二) 警戒隊先任指揮官乗艦(針路三〇度、時ハ殿艦)ハ警戒線上第一第五區兵(附圖第四)通過時超短波電話ヲ以テ「我第一第五區兵通過時刻……」ヲ下シ、錨地艦(輸送隊中艦)開始後ハ全殿宛ニ通報ス
 - (三) 警戒線航行中(第五區兵↓第二區兵間)先頭艦及殿艦ハ五分間隔ニ探照灯(夜間ハ方向性信号灯)ヲ以テ自己名ハ艦名假名ノ最初ノ二文字ヲ鳴神港口方向ニ向ケ三回放送ス
 - (四) 警戒隊指揮官視界不良時自己ノ位置確認ノメメ要求スレバ下シ、警戒艦ニ對シ照射ヲ要求ス
- 本要求アラバ下シ(警戒艦ハ探照灯ヲ六〇度(四〇度)方向ニ向ケ下シ)符三回連送ス

(六) 下船地及試射警戒及戰鬥要領

一 錯位 或可ノ先ニ射敵即時出港可能ナルヤノ準備ニ出末
得ルハ船ノ概ス九〇度方向ニ係指スルニカキ

二 港内没入ノ懼レル敵艦(魚雷艇等)ニ對シ特ニ警戒ノ嚴
ニス

三 敵ヲ発見セバ即時砲撃(夜間照射砲撃)ヲ以テ警告報ス(電話
併用)但シ射方警戒隊トノ危険ヲ考慮シ自艦位置ヲ九〇度

方向ヨリ北方ノ敵艦ニ對シテハ射方識別ヲ以テ敵ヲ確認シタル後
ニ非サルハ砲撃セザルモトス(警戒隊ヨリノ區矣通過通報ニ注意)

四 警戒隊ヨリノ要求アリタル場合探照灯ヲ以テ下符ヲ三回連送ス
(方向六〇度水平)

五 出港法第二法ノ場合ハ警戒隊港口ニ近接スルヲ以テ敵艦ヲ確
認セザル限リ発砲スベカラズ

五 鳴神港出港ヨリ幌筵敵投マテ

(1) 鳴神港出港法ノ左ノ通り定メ特令無ケレバ第一法トス

種別	要領
第一法	輸送隊第一航路警戒隊各輸送隊分屈
同右別法	輸送隊第二航路先行警戒隊敵阻止
第二法	輸送隊第二航路警戒隊各輸送隊分屈
同右別法	輸送隊第三航路先行警戒隊敵阻止
記事	警戒隊各船ノ分屈ハ第二軍隊區分ノ◎印ノ通トスルモ損傷船等ノ多クハ依リ難キ場合ハ特令ス

(2) 輸送隊ノ出港ハ出港準備完成セル輸送隊ヨリ順次各輸送隊毎ニ出港ス

出港時機及時隔ハ本職(本職出港後ハ所在主任指揮官)特令ス時

開標單(五分)

- (一) 各輸送隊ハ令ニ依リ出港特令無ケレバ第一航路(北方航路)ヲ執リ
 ○ト夫ヲ経テ附圖第四所定航路ヲ北上ス(速力ハ視界リ良好(三料
 以上)ナラバ二節視界狹クナル場合一六節以下)
- (二) 各輸送隊ハ〇矣通過時刻ヲ出港後速ニ港外警戒隊指揮
 官ニ通報ス
- (三) 前項通報ヲ得ハ警戒隊指揮官ハ當該輸送隊ノ護衛驅逐
 艦ヲ解列セシム
- (ハ) 護衛驅逐艦ハ解列後輸送隊ト同航平行(横距高一〇〇米
 以内)トシ成ル可ク速ニ輸送隊ノ後尾ニ入列スル如ク運動ス
- (ニ) 護衛驅逐艦ノ司令カ輸送隊指揮官タル場合ハ出末得レハ輸送隊
 ノ先頭ニ占位スル如ク運動ス
- (山) 第二法ノ場合ハ警戒隊指揮官ハ警戒線ヲ適宜港口附近ニ移

動シ解列警戒駆逐艦ハ〇矣ヨリ南水道マデニ入列スルヤ行動ス此
場合丁(S)錨地駆逐艦ハ之ニ注意シ特ニ味方打セサル様留意シ
要ス

(7) 右入列運動ハ視界不良ナル場合最モ保安ニ注意シ輸送隊護衛
艦警戒隊共ニ探照灯或ハ音響信号灯霧中浮標曳航等
最良ノ手段ヲ講ジテ互ニ視認入列ヲ計畫實施スルモトス此
ヲ得不視認入列困難ナル場合ハ音響信号ニ依リ護衛艦ハ輸
送隊ノ後方ニ適宜續航スルモトス

(8) 丁錨地警戒艦ガ護衛艦トナル場合ハ丁錨地附近ニ適宜入
列ス

(9) 護衛艦入列ハ各輸送隊ハ平五郎岩南方附近ヨリ適當ニ増
速(増速時機及速力ヲ後續隊ニ通報)シ各艦ハ距離ヲ固キ
(標準約一五〇米)爾後情況変化無ケレバ左ノ予定航路ヲ以テ

速ニ四ノ兵ニ遊退（四ノ兵ヨリアムチカノ三〇〇里マテハ出レ得限リ高シ
爾後針路ニシテ度トナレ附圖所定針路ヲ各隊毎ニ愷定ニ放投
スル如ク行動ス

輸送隊	針路（一）八第二航路	四ノ兵
第四輸送隊	四ノ兵通過後三三五度（三三〇度）	同上針路ト47'0"トノ交矣
第三輸送隊	〇〇 二二五度（三三〇度）	同上針路ト47'15"トノ交矣
第三輸送隊	四ノ兵通過後三三五度 ヲホリテ正橋後三三五度（二四〇度）	同上針路ト47'30"トノ交矣
記	各隊ハ東至二二五度線通過時刻針路速力ヲ中波ニテ	
事	報告通報スベシ	

（ル）第三輸送隊ニ於テ薄雲響音ノ燃料在庫量ノ因係上捷路放投
スルヲ可ト認メ且敵情氣象等之ヲ許ス情況ニ於テハ指揮官所
定ニ依リ四ノ兵以前ニ於テ西航スルコトヲ得

(7) V矣以後對空警戒ヲ最嚴ニスルヲ要シ之カ為要スレバ予定航路ヲ変更スルコトヲ得

(7) 各隊指揮官ハ敵投航路上左ノ諸項ヲ超短波電話(通達困難ト認ムル場合ハ中波)ヲ以テ各隊ニ通報スルモノトス(順次前後續

隊ニ中継)

(一) 敵発見及交戦情況其他重大事故發生ノ場合(交戦セル場合要スレバ短波併用)

(二) L V V矣及東經一六五度線通過時

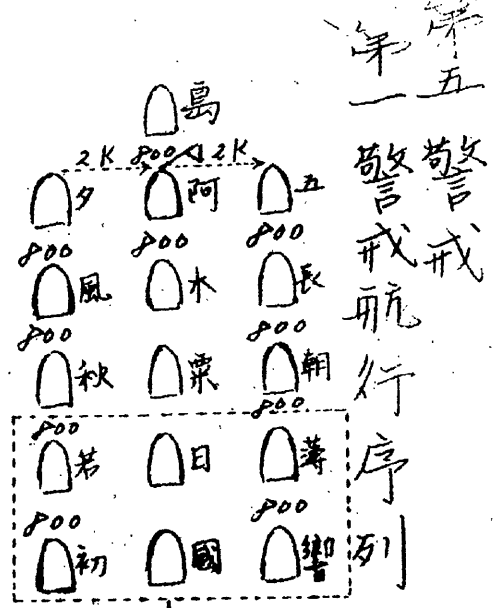
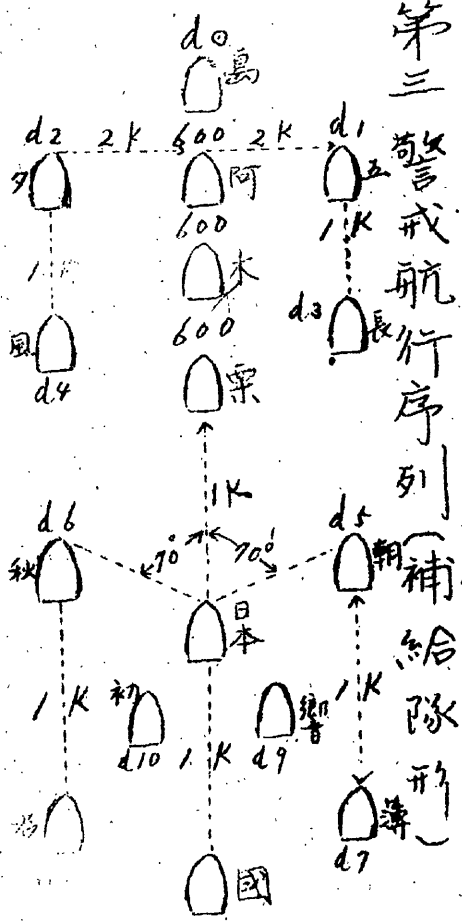
(三) 情況ノ變化ニ依リ止ムヲ得ズ予定航路ヲ変更スル場合(針路速力)

(カ) 各隊幌是附近ノ對潛敵情ニ依リ幌是南ヨリノ敵投危険ト認ムル場合ハ Y 矣ヨリ幌是ニ直航スル事無ク牟知海峡以西ヨリ

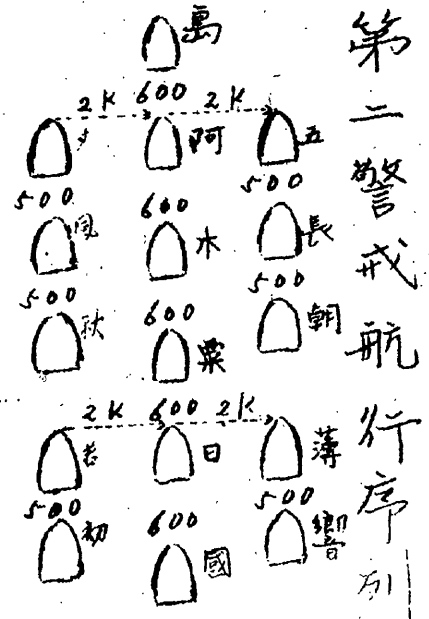
オホツク海ニ入ルモ可ナリ

(日) 敵投航路中戦斗其他ニ依リ損傷シ高部隊以外救援ヲ要スル場合ハ栗田丸日本丸主隊中最奇艦隊ノ位置急航ニ依頼スルモノトス(連絡電波中波)

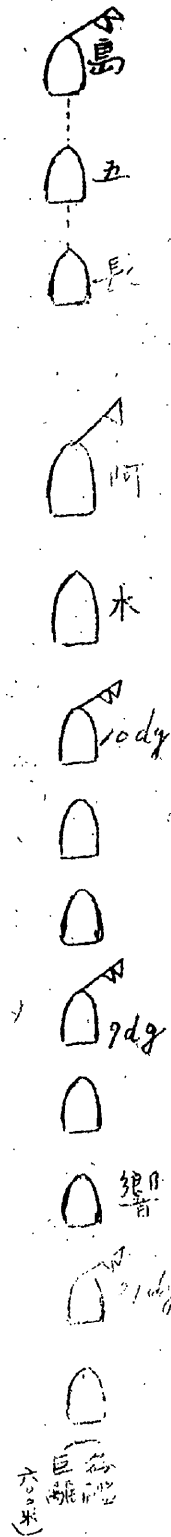
43



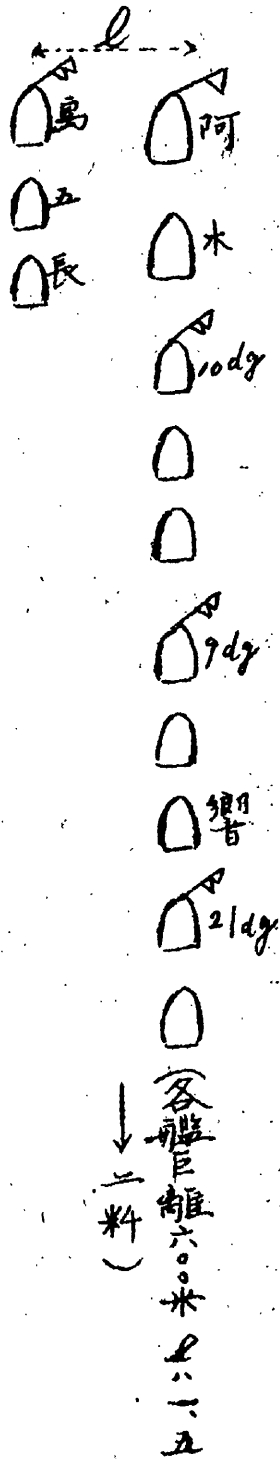
16K之字運動
18時、14K=7時
進續行



第四警戒航行序列



第五警戒航行序列 (視界三料以上時)



44

一見張警戒

(1) 本作戰行動中予想シ得ベキ對空戰鬥、狹視界中ノ水上戰鬥及霧
 中保安上最留意スベキハ見張警戒ナリ即旺盛ナル對敵觀念ト眞劍
 ナル責任感念ヲ以テ各隊(艦)見張管制ヲ適切ニ實施シ所要時機
 ニ於テ全力見張ニ傾注シ我先ツ敵ヲ發見シテ先制利ヲ收メ以テ
 敵ニ致サズ或ハ危險物ヲ早期ニ發見シテ艦保安ノ萬全ヲ期ス等苟モ見張
 上ノ欠陥ニ依リ悔ヲ殘サザル事ニ最戒慎ヲ要ス
 (2) 各種狀況ニ於ケル見張上留意スベキ事項左ノ通

對敵種別	場所或時機
潜水艦 (一) 幌筵島附近 (二) 黎明薄暮 (三) 鳴神島周辺特ニ進入 出撃時及港外警戒中	(一) 黎明薄暮ハ四圍水平線ヲ浮上潜水艦ニ注意 (二) 後方觸接艦ニ注意(列線後方ニ注意特ニ後續艦) (三) 霧中至近距離ニ注意 (四) 發射時、音響及氣泡ニ注意

記 事

14

三 電探電檢ニ依ル警戒
 當部隊裝備兵器利用、絶好機會ナリ、各艦全副之ヲ活用シ、夜間霧中ノ敵發見
 及航法利用ニ努ムルモ、トス之ガ具体的使用法ハ別ニ定ムルトシ、ロニ依ル
 一 敵發見通報

<p>水上艦艇</p> <p>(一) 乙日 0000 - 乙日 0200 (二) 特 鳴沖島同遊ニ於ケル (三) 霧中ノ敵(哨戒艦艇)</p>	<p>飛行機</p> <p>Y+2 日 乙日 晝間</p>	<p>(四) 霧中航行中 (五) 補給中</p>
<p>(一) 夜間及霧中、突合會敵 (二) 特 早期遠距離發見 (三) 夜間及黎明後方觸接艦</p>	<p>(一) 敵哨戒機、飛行通報ニ注意 (二) 敵ハ低空哨戒ヲナスコト多シ、低高度見張 (三) 霧、晴間、上空注意(肉眼ニテ可ナリ) (四) 上甲板以上ニアルモノ、總員對空見張 (五) 對敵方向見張重點、指示</p>	<p>(一) 敵潜電話ニ注意</p>

45

(1) 即報第一義トシ各哨戒長ハ凡ル場合、即報ニ関シ胸算アルヲ要ス

(2) 通報方法

(a) 即時發砲通報

(b) 信號

日GF所定對潛艇發見信號ハF所定併用

日晝間旗號、外ニ探照灯或警告併用

日夜間赤色方向灯

日夜間照射ハ自己暴露ニ注意

(三) 無線

GF所定電話使用(情況ニ依リリサ甲)

(四) 其他

晝間煙幕(五秒間)サイレン(長符連送)

五 敵情偵知

15

Y+2 日一六〇〇	Y+2 日〇七〇〇	Y+1 日〇二〇〇	機 運 出 撃	自	期
Y+1 日〇〇三〇	Y+2 日一六〇〇	Y+2 日〇七〇〇	Y+1 日〇二〇〇	至	向
第三 配 備	第二 配 備	第三 配 備	第二 配 備	艦内哨戒配備	
合 右	合 右	合 右	二節即時二四節二〇分	機関待機	

本行動中哨戒配備及機関待機標準左通定ム

ニ入ルヲ避ク

六氣象観測
 一 根第五氣象隊及伊二潜(アック)附近配備ノ通報ト自艦観測資料トヲ對比
 考察シ作戰行動區域ノ氣象特ニ霧ノ狀況ヲ判断洞察シ不慮ノ逆境

一 根及大海通報及潜水部隊通報(最近及本行動中ノモノ)ニ依リ敵情ヲ
 シ警戒、參考トス

46

第六戰闘

一戰闘方針

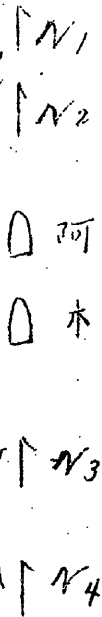
作戦方針ニ基キ凡レ手段方法ニ依リ隱密任務達成ヲ主眼トスルモ常ニ對敵即
 應戰闘力即時發揮ノ準備ヲ完整ニ進攻途上ニ横スリ我任務達成ヲ
 阻礙セントスル敵ニ對シテハ之ニ致ササル如ク敵ニ先ジテ之ヲ攻撃粉碎シツ
 目的的地ニ向フ

機関待機ハ右ヲ標準トスルモ不時、高速待機或ハ發揮ヲ要スル場合アルベキヲ以テ 適切ナル準備及心構ヘヲ要ス	乙日〇九〇〇	乙日〇〇〇〇	乙日一八〇〇	乙日〇〇三〇
	キスカ上ニ五連ヲ	乙日〇九〇〇	乙日〇〇〇〇	乙日一八〇〇
	各輸送隊指揮官所定	第一配	第二配	第三配
	備	備	備	備
	三〇節即時最大戦速ニ〇分	二八節即時三〇節三〇分	二〇節即時二四節二〇分	二四節即時二八節二〇分

二 戰鬥序列

戰鬥序列

一 第一戰鬥序列



二 第二戰鬥序列

三 第四警戒飛行序列、順序

記

1cd 2cd ハ夫々A 2dg A 9dg 之ヲ指揮ス

事

三 第二戰鬥序列、場合dg (d)ハCSノ前方後方ニ分テ各先任指揮官之ヲ指揮ス
 三 栗田丸日本丸國後ハ先任指揮官之ヲ指揮シ逃戰側ニ避退

三 戰鬥一般弁則

一 敵發見ハ戰鬥第一聲ナリ早期發見迅速報告ヲ第一トス

二 突嗟戰鬥

一 今次作戰中特鳴神島附近ニ於テハ霧中突嗟會敵ノ公算極メテ多キヲ豫想ス各隊(艦)ハ第一水雷戰隊砲戰魚雷戰特機標準ニ依リ各部ノ準備ヲ完成シ會敵ニ際シ違算無キヲ期スルヲ要ス(2日)ハ以後砲雷戰

44

即時待機

突嗟戦下令時ノミナラズ本行動中ハ豫期セザレ時機場所ニ會敵スルコトアルヲ以テ戦闘準備ニ留意ヲ要ス

對潜水艦對飛行機戰鬥ハ常ニ突嗟戰鬥ナリ

狭視界中、戰鬥

霧中或ハ夜間等狭視界中會敵セル場合發見艦直ニ攻撃開始他艦ハ速ニ之ニ集中猛撃ヲ加フ

魚雷攻撃ハ效果ヲ期待シ得ル場合艦長司令(駆逐艦長)所定ニ依リ

實施

各艦、分離攻撃運動ハ特令ニ依ルモノトシ特令ナケレバ當時陣形(隊形)ニテ

前續艦ニ續行スルモノトス

第五警戒航行序列ニ於ケル側方驅逐隊ハ戰鬥ハ指揮官所定

四情況ニ依リ特令シテ一部ノ隊(艦)ヲシテ敵ヲ處理セシメ大部ハ之ヲ驅逐

目的地ニ直行スルコトアリ

(三) 狭視界、戦闘ハ味方混乱防止ニ特ニ注意スルヲ要ス

(二) 視界良好ナル場合、戦闘ハ敵兵力極メテ劣カレ場合ハ前項(一)ニ依リ場合

アルモ全兵力ヲ以テ速ニ之ヲ撃滅スルヲ建前トス

(ホ) 損傷艦ヲ生じタレ場合ノ處置

(一) 損傷艦ニシテ列中ニアリテ戦闘不可能ナルモノハ損傷程度ヲ左ノ四種ニ別ケ

速報スルト共ニ航行可能ナルモノハ速ニ非戦側ニ偏位シテ應急處置ヲ

實施シツツ命ヲ待ツモノトス

(1) 沈没ノ懼アリ

(2) 航行不能沈没ノ懼ナシ

(3) 大破航行可能速力一〇節以上

(4) 同 右 九節以下

(三) 損傷艦ヲ生じタル場合若モホ令ナクシテ損傷艦ノ護衛艦トナル(其次

48

ノ護衛艦ヲ初相トシ分離ハ特令ニ依ル
 護衛艦ノ損傷艦ニ近接シ之ガ護衛及救難任務ニ從事シ別ニ定ムルトコロ
 ニ依リ行動スルモノトス

四砲戦守則

(1) 敵電探利用射撃ニ對シ反撃

(2) 電探利用シ視界外ヲスル敵砲撃ニ對シハ電檢適時適切ナル活用ニ
 依リ遠距離ニ於テ電探使用中ノ敵ヲ檢知之ニ依リテ出來得ル敵砲撃
 ニ先ジテ我ヨリ先ヅ一撃ヲ加フ

(3) 敵彈着状況ニ依リテ射撃方向ヲ判知得ルソノ方向ニ對シ極力反撃ニ努ム
 (4) 對空射撃

雲霧ノ下際ヲ突嗟出現スル敵航空機ノ超低空銃爆撃ニ對シテハ對空見
 張ヲ至嚴ナラシムルト共ニ主砲機銃ノ即時使用ニ對シ萬全ノ準備ヲ要ス

五魚雷戦守則

18

突嗟魚雷戰ニ備フルタメ魚雷戰即時待機下令後ノナラス行動中第一空
壓カニ注意シ使用圧カノ保持ニ努ムルヲ要ス

突嗟魚雷戰魚雷調定諸元ハ機密一水戰命令第九號所定ニ依ル

發射時機及發射雷數ハ特定特令ニスル場合ノ外各指揮官(驅逐艦)所
定トスルモ時機ニ関シテハ效果ヲ期待シ得レト發射雷數ニ関シテハ打惜ミ及

亂射ヲ戒シムルヲ要ス

發射運動ニ関シテハ發射下令後速ニ魚雷射出ラ主眼トシ管外斜進ノ活用ニ努

メ特ニ霧中或ハ狹視界編隊航行中ノ突嗟魚雷戰如キハ十度以上ノ轉舵
ヲ行ハサルヲ建前トス

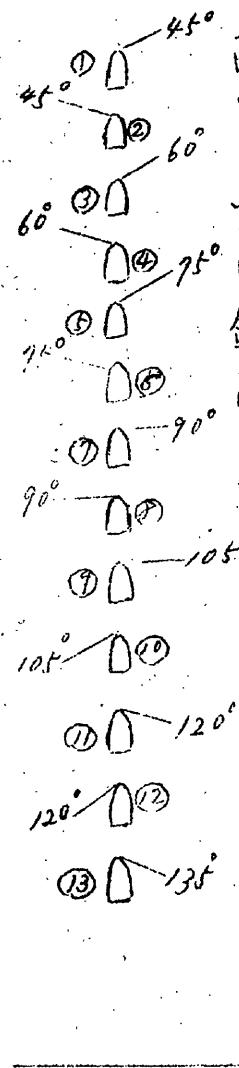
混戰中ノ魚雷射射ハ味方ノ所在留意スルヲ要ス

魚雷射射セル場合速ニ報告(通報)スルモトス

六 對空對潛戰闘

飛行機及潜水艦ニ對スル回避ハ單獨回避ヲ建前トシ情況ニ依リ特令

シテ齊動ニ依ル一齊回避ヲ行フ

<p>「散」 應信ハ 同信號</p>	<p>散用隊 形制</p>	<p>縦陣列の場合 本信號了解セバ敵艦ヲ順次發動左ノ通リ緊急回頭ヲ 行ヒ後續艦ト距離約ニ料ニ至ラバ先頭艦ヲ順次ニ信號ヲ 降下シ基準十字路ニ復ス</p> 
----------------------------	-------------------	--

敵潛敵ノ攻撃ヲ習性ニ鑑ミ之ニ應ズル見張回避攻撃法ヲ考慮シ置クヲ要ス
 敵潜水艦ハ概ネ正横後ヲ發射ナルト多シ
 敵飛行機ハ低空觸接超低空銃爆撃ヲ實施ス
 飛行機ヲ遠距離ニ發見シ或ハ飛行機ノ近接ヲ豫知シ得ル場合ハ单独回避
 便ナル如ク左ノ要領依リ散用隊形ヲ制形セシムルヲ例トス

信號

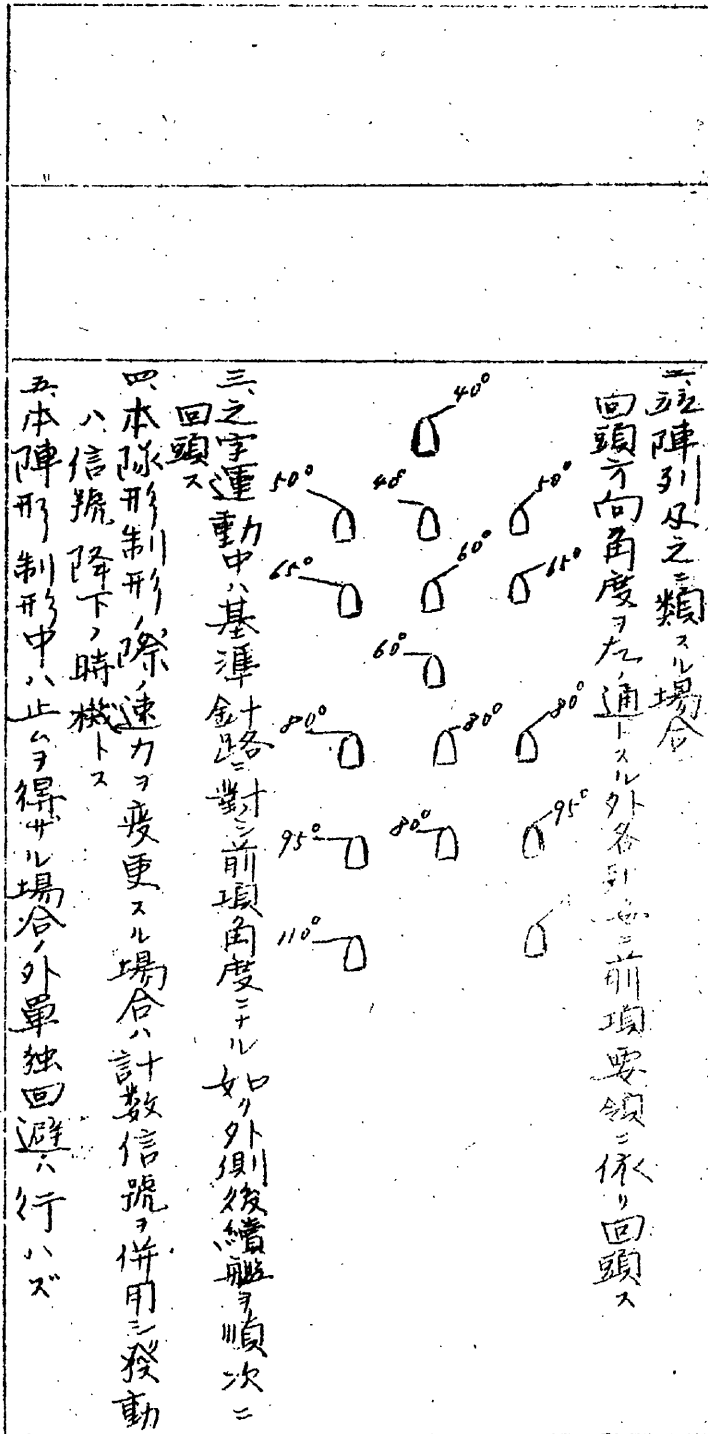
信文

運

動

戦闘運動

狭視界中、戦闘運動ハ味方他隊（艦）ト関係ヲ考慮シ混淆防止ニ
 関シ特ニ留意スルモノトス



狭視界裡戰闘中、特令無キ限り列外（視界外）ニ離脱セザ
 ルヲ建前トスルモ情況止ムヲ得ズ友隊（艦）ノ視界外ニ出ズル場
 合ハ針路速カヲ迅速確實ニ通報スルヲ要ス
 對空對潜單獨回避ノタメ列外ニ出テタル艦モ之ニ準テス

備考

一 視界狭窄に信號通達困難ト認めルトキハ直ニ(ア)ト(イ)ニ配置ス

ニ「ス」ハ……水雷部隊第一通信配備ノ畧語ナリ

三 鳴神港入泊中敵情変化ナケレバ超短波ノミ警言戒管制トシ之ヲ主用

スルモ己々得ガル場合警言戒駆逐艦ハ中波ヲ使用ス

敵信利用配備

記事	艦隊一般中波系	間接受信系	潜水艦系	爆撃機系	哨戒機系	通信系		配備区分
						波長	担任艦	
特殊情況ハ其ノ都度艦隊宛信號スルモノトス	二六二〇	四一六五	四二三五	三八四〇	四二六五	波長	担任艦	ス一
		○			○			木栗
	○							ス二
			宜	適				木栗
	○		○	○	○	○		ス三
						○		木栗
			宜	適				ス四
	○	○	○	○	○	○		木栗
			定	所	安	艦		ス五
			宜	適				木栗
				特令ス	情況ニ依リ			備考

(ハ) 方位測定計画

會合用	A0B 誘導用		測定目標
指定艦	南高地起 短波無線 誘導装置	送信所	五一通主 カルル重六
数字通宜	A I	八キ(甲五)	符號
長符多々			
三六 K.C.	六五 M.C.	西九 K.C.	周波数
	51°57'20" N 177°33'15" E 天測莫 / 163° 3300米	51°59'27" N 177°32'35" E 天測莫 / 12° 740米	送信位置
特令ナケレ 八十分毎 二二分間	常時	毎時五分 及五分 リ各三分	時間
	一 基準幅射方位五三度 二 五分感度幅左右各一度 三 三分 四 向ソテ右左A 五 有初巨難約五分	一 使用送信機九式三號改	記 事

(ニ) 電波索敵

- 一 水雷部隊電波索敵規程ニ依ル
- 二 探信配備ハ特令ス

特令ナケレバ通常探信配備シテ三三法トス

(参考事項)

敵極超短波使用状況

一 装備艦艇航空機

(イ) 敵艦艇(潜水艦ヲ含む)ハ總ヘテ對水上艦艇用電探

ヲ有スル算極メテ大ナリ

(ロ) 敵大型航空機(B-24 B-25 B-17 B-19 PB2Y等)ニ殆ド電探ヲ有シ

且ツ我電探妨害装置ヲ有スル筈大ナリ

二 敵ノ使用シテト認ケル極超短波(検知可能範圍ノモノ)

83

(ホ) 通信防衛
 (一) 信文防衛
 A 暗號書

M.C.	使用電波	使用艦(機)	用途
極超短波 スペクトル	370 355 345	潜水艦(未)	對水
	検知範囲		
	240	潜水艦(未)	電話?
	230	空母(未)	對空?
	214	一般艦艇(未)	對水
	187		
	119	潜水艦(未)	對空
	114	航空機(未)	見張用?
	100	馬神島	

警戒駆逐隊	巡洋艦部隊	補給隊	應急收容隊	水雷部隊	艦隊	隊艦名
狐	狐	狸	狸	狸	狸	通話番號
二	一	三	二	一	○	隊艦名
	第四	第三	第二	第一輸送隊	收容駆逐隊	通話番號
	虎	虎	虎	虎	狐	隊艦名
	四	三	二	一	三	通話番號
					水雷部隊	隊艦名
	4N	3N	2N	1N	P	通話番號
	葛蒲	葛蒲	葛蒲	葛蒲	狸	通話番號
	四	三	二	二	○	

水雷部隊特定呼出符號

近距離通信 = 限り使用ス

水雷部隊命令第一號) 及左ノ特定通話番號ヲ隊内

2. 呼出符號

1. 呼所定暗號略語、他水雷部隊特定隱語(信號略語)ヲ隊内近距離通信 = 限り使用ス

84

B 地矣表示法

1 第一地矣表示法

基矣 鳴神島電探位置 (鳴神島天測矣 米)

2 海軍作戦用圖(甲三)

3 第四地矣表示法(水雷部隊戦手行動ヲ執ル場合)

基矣五一度五五分北一七七度三五分東

一區劃緯度経度各一分

C 已ムヲ得ル場合、他平文ノ使用ヲ嚴禁ス

(二) 電波輻射防衛

A 電波戦手管制

入泊時超短波警戒管制トス

B 視界狭窄時、超短波ノ管制ヲ解クハ緊急場合、

他旗艦、送話開始以後トシ必要ナル通話ヲ終了セ

二 信號通信

ハ旧ノ管制ニ復スルモノトス

ハ夜間方向性信號灯ハ赤色以外ヲ使用シ光カヲ必要

限度ニ絞リ置クモノトス

赤色方向性信號灯ハ敵性通報ニノミ使用ス

ハ霧中ノ信號ハ主探照灯ヲ使用スル機会ヲタマヒツキ信

號用シモツクハ常時裝備シテ置クモノトス

ハ夜間奔光信號ハ已ムヲ得ケル場合ノミ使用シ信號

ハ發未得ル限リ晝間處理シ置クモノトス

ハ隊内特定信號

ハ水雷部隊特定指呼信號

ハ同 特定隠語(信號略語)ニ依ルモノ

ハ味方識別信號

85

一) 問語 答語

問語 長符連送 (短符連送)

答語 短符連送 (長符連送)

二) 問語 答語 = 依ルノ外時機揚所方向ヨリ判断スル

ヲ要ス 此ノ場合 不規ナル行動ヲナシ敵ト誤認

ナル、虚候アル艦ハ右問語又ハ答語ノ次ニ自艦ノ特

定指呼信號ヲ附スベシ

第八補給

一 往路補給實施時機ハ 08 2-2 02 2-1 其ノ他要スル場合

(1) 補給隊形 第三警戒航行序列

(2) 補給開始ノ令了スバ d9 d10 ハ日本丸ニ近接補給開始

(特令ナケバ横鬼)

(3) 補給順序(・)ハ日本丸ノ左舷

d9 (d10) d7 (d8) d5 (d6) d3 (d4) d1 (d2) 要スバ阿武隈(木曾)

(二) 交代法

(1) 各補給艦ハ補給終了30分前ヲ「整」ヲ以テ通報ス

右通報ヲ次番艦行動ヲ開始ス

(2) 郷音 薄雲 朝雲 (初霜 若菜 秋雲) 三艦ノ補給(d9 (d10)

d5 (d6) d7 (d8) d9 (d10)ノ順序ニ位置ヲ変更シ其ノ他ハ其ノ儘

ト朝雲(秋雲)「整」以後ハ d9 (d10) d1 (d2) d3 (d4) d9 (d10)ノ

順序ニ位置ヲ変更シ其他ハ其ノ儘トス

(三) 40 日本丸ノ早ヲ終了セシ艦ニ至リ補給シ阿武隈 木曾

ノ宙施ハ特令ス

六 收容部隊情況ニ依リ 01 頃 (05 乙以後) 進出不利ト認め引返シ

タル場合再舉可能ナル時ハ 11 乙 (05 乙) 頃 日本丸第一待機線

ニ於テ補給ス(補給艦ハ特令要領ハ前項ニ同シ)

三 歸路補給法

第三輸送隊(薄雲 響ヲ含ム組)ハ情況ニ依リ同隊指揮官所定

ニ依リ適時隊内ニ補給或ハ日本丸ト合同同船ヨリ補給

スルトヲ得 日本丸トノ合同ニ関シテハ止ムヲ得サル場合ノ外

中波以外ヲ使用セサルモノトス 尚日本丸ト合同補給ノ要無キ

場合ハ第三輸送隊指揮官ヨリ其ノ旨同船ニ通報スルモノトス

84

第九友軍、協力

機密北方部隊命令作第十六號同第十七號 機密北方部隊

潜水部隊命令作第ニ號前定

第百 本行動中特ニ留意スベキ事

一 應急関係

（一）可燃物、處理及應急作業實施ヲ容易ナラシムル事

今次作戦行動ニ直接関係無キ物件ハ去撃前陸上或ハ

他艦ニ移管スルト共ニ艦内移動格納スル等徹底的ニ艦内

整理ヲ實施スルモトス（艦ノ安定性ヲ考慮スルモトス）

（二）艦内閉鎖及應急器材準備

撤收員ヲ多數乗艦セシムルニ就キ特ニ艦内閉鎖ヲ勵行シ

應急器材及要具ノ配備（準備格納位置）ニ特ニ留意シ不意

ノ被害ニ即應ジ得ル用意アルヲ要ス

(一) 火災防止 防火能力ノ最大發揮

火災防止ニ関シ萬全ノ準備ヲナスト共ニ防火能力ノ最大發揮ニ對シテアラズル要具ノ善用能力即時發動等ニ関シ各種ノ情況ニ應ジ得ル如ク酌算 具體策ヲ確立シ置テヲ要ス

(二) 彈火藥庫ニ對スル注水準備

出撃前注水装置 撒水装置等ノ整備ヲ再確認スルト共ニ出動中ハ右装置ノ即時使用ニ関シ遺憾ナキヲ期スルヲ要ス

(ホ) 其他

過去ノ戰訓ニ鑑ミ今次作戰中生起シ得ベキ霧務中突然ノ被砲撃被害ヲ考慮シ前諸項以外ノ各種對策ヲ研究準備シ置キ連續突嗟應急ニ関シ萬遺憾無カラシムルヲ要ス

航海保安

本行勅中豫想サルベイ長期霧中航行及霧中鳴神入港等ニ
関シ特ニ事前ノ研究準備ヲ完成シ坐礁衝突等ノ事故
ノ絶無ヲ期スルヲ要ス

(1) 出撃前ノ準備

霧中浮標ノ豫備品準備 航跡標示ノ夕々 重油滴下
装置ノ準備 サイレンノ整理

(2) 霧中航行

霧中航行用意ハ特ニ下令セテ霧中浮標ノ曳航(揚收)
ノミ下令スルヲ建前トスルモ突如霧來襲ノ場合等本指令モ
發シ得ル場合アル可キヲ以テ各艦ハ常ニ霧中航行用意ヲ
完成シ要スレバ期ヲ失セズ艦長(司令)驅逐艦長所定ニ依リ
霧中浮標ノ曳航ヲ開始スルモ又(曳索長 驅逐艦 三〇〇米

軍艦四五〇米)

(二) 霧中信号ナイレシハ特令無テバ旗艦及前續艦ニ做ラモトシ
時間ハ約五分ニ一回トス

(三) 晝間ハ探照灯其他ヲ以テ相互隣接艦ヲ確實ニ視認
シ得ル年段ヲ講ズルヲ要ス 夜間探照灯ノ照射ハ特令ニ
依ルモノトシ艦尾灯投光器ノ使用ハ各艦所定トスルモ視界
状況ニ依リ適當ニ管制スルヲ要ス

(四) 霧中航行中隣接艦視界外ニ在ル時ハ特令ニ依ル場合外
變針變速ヲ行ハズ止ムヲ得不行ノ艦ハ速ニ各艦ニ通報スルヲ
要ス

(五) 霧中航行中電話配員ハ迅速確實ニ勵行シ各艦發信ハ
止ムヲ得サル場合ノ外旗艦送話開始後トス

(六) 鳴神島附近航行中ハ特ニ保存見張(前續艦ノ運動陸岸陸影等)

89

ニ注意シ暗機即應ノ處置ヲ誤ラザルヲ要ス

陸影發見ノ夕メ電探使用ハ特令ニ依ル

三 行動秘匿及隱密航海ノ爲留意スベキ事項

(四) 夜間灯火ハ戰鬥管制トシ絶對ニ灯火ヲ漏洩セザル様特ニ留意シ(係船上必要ナル灯火ヲ除ク)方向信号灯ノ光力調整ハ適切ニ勵行スルヲ要ス

(四) 浮流物ハ絶對ニ投棄セザル様特ニ嚴達監督スルヲ要シ(ビルジ) 放射ハ重油滴下時機以外ハ日没一時間後ヨリニ時間以内ニ處理スルモノトス

(四) 各艦ハ特ニ決煙禁火ニ留意シ氣吹掃除ノ際極力火ノ子ヲ出ナザル様注意スルヲ要ス

2216 四 本行動中 濕氣極メテ大ナルヲ以テ電氣兵器(信号灯ノ通報器探照灯等) 整備牛入ニ特ニ留意ヲ要ス

五、警戒航行中ノ諸訓練

○日 日出附近マテ警戒航行中左ノ諸訓練ヲ勵行スルノ要ス

(1) 黎明 薄暮ノ 綜合訓練及警戒

(2) 哨戒長ノ指揮スル哨戒員ヲ以テスル砲戰 爆雷戰 照射(夜間ハ

光芒ヲ出サズ)訓練

(3) 警戒航行序列中ノ 相對艦ヲ目標トスル砲戰 魚雷戰訓練

第十一

一時辰整合

本行動中毎日一二〇。實施

二、艦位報告

阿武隈 木曾 粟田丸 日本丸 各司令 駆逐艦及特ニ參考トナルベキ

艦位ヲ得タル 艦ハ一二〇ノ 艦位ヲ一三〇ニ報告ス

(附圖) 戰鬥詳報ニ添付本誌有(畧)

(別紙) 水雷部隊特定標語有(畧)

(終)

4122



一、外單機密第一八號、一二

昭和十八年七月六日

第一水雷戦隊参謀

作戰命令追加訂正

機密水雷部隊命令作第四號中左通追加訂正

一、Y日駆逐艦、對潜掃蕩ヲ左通改ム

二十一驅及島風ハ二十一驅司令之ヲ指揮シ一六〇。以後

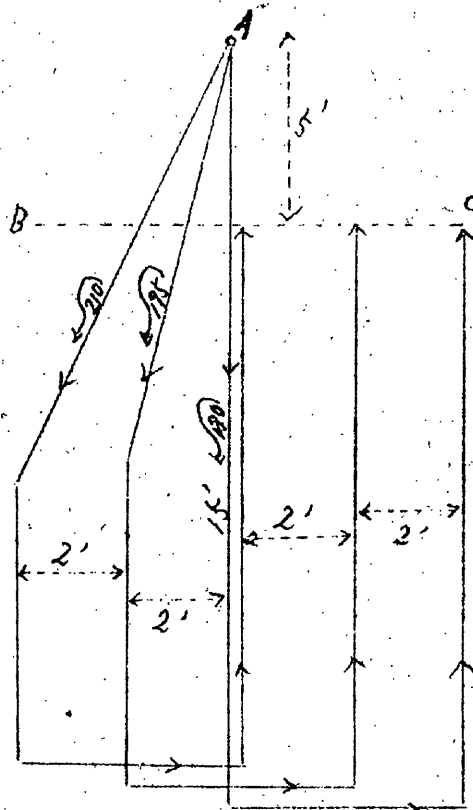
出撃

左、要領ニ依リ南口外方海面、對潜掃蕩(島風聽音機利用)

ヲ實施シタル後一九四五頃A点ノ内方ニ於テ第二警戒航行

序列ニ占位スル如ク行動ス

撤收員收容後ノ大発處分ニ関シ左ノ通定ム
 (1) 各艦使用大発故障ノ場合ハ「隻故障」ト當該輸送隊及先任輸
 送隊指揮官ニ報告ス
 (2) 各艦自艦使用大発ニシテ不用トナリタル時ハ前項両指揮官ヨリアマリ
 隻ト報告シ該大発ノ處分ヲ暫ク待ツ
 (3) 両指揮官ノ視界良好ノ一料以上ノ場合ハ「アマリ」艦ヨリ故障或ハ



(一) 進出距離 一五哩
 (二) B C 線掃蕩止メ
 (三) 其他指揮官所定

91

收容淺ルル艦ニ之ヲ配當ス(配當場合ハ大発固有船員ノミヲ乗艦セシム本船員ハ配當サレタル艦ニ乗艦收容ス)
 (二) アマリヲ生セル艦自艦收容完了時ニ兩指揮官ヨリ大発配當ノ指令ヲキキ時ハ大発全部ヲ處置
 (三) 右大発配當ハ當該輸送隊内ニ先取權ヲ與フ
 三各輸送隊ノ分屬警戒艦ヲ左ノ通改ム

編制種別	第一次出港輸送隊	第二次出港輸送隊	第三次出港輸送隊	第四次出港輸送隊
第一編制	島風	五月雨	長波	若葉
第二編制	島風	五月雨	長波	若葉
第三編制	島風	五月雨	長波	若葉

四警戒隊ノ鳴神港外警戒法ニ関シ左ノ通定ム
 (一) 警戒法種別適用時機及規約信號

種別
 隱語
 畧語
 適用場合

警戒方法

第一警戒法	第二警戒法	第三警戒法
京阪一〇二番 ケイロト	京阪三〇二番 ケイフタ	京阪三〇三番 ケイサン
視界不良(三料以内)の場合	視界良好(三料以上)の場合	第二警戒法ヲ平五即若以テ海面ニ分高 警戒セシムル場合

第一警戒法	
(一)第一警戒隊(若葉長波)ハ夫々丁(小島崎)ニ五六度(一三五〇米) K(小島崎)ニ五〇度(一七〇〇米)ニ假泊港口警戒及第二警戒隊ノ支援 二件カ (二)第二警戒隊(島風五月雨)ハ所定警戒線ヲ移動警戒ス (三)輸送隊出港際ハ第四項改正通所屬警戒隊ニ分屬ス 但第一編制出港法第三法ノ場合(島風五月雨)ヲ若葉長波ニ長波 ヲ島風ニ若葉長波ヲ五月雨ニ初霜ハ其儘)変更ス	第二 (一)第一第二警戒隊合同、上豫定警戒線ヲ移動警戒ス (二)出港際、分屬豫定通

92

第三警戒法

(一) 第二警戒隊ハ平五即岩北才海面第一警戒隊ハ豫定警戒線ヲ移動シ警戒ス

(二) 輸送隊分屬ハ第一警戒法ニ同^(三)第二警戒隊ハ出港法第二法場合特令ニテ第四次出港輸送隊ノ後尾ニ結航セシ或ハ北廻リ单独歸扱セシムルコトアリ

五. 輸送隊出港際警戒驅逐艦入列法

(一) 第一次出港輸送隊ニ分屬スベキ驅逐艦ハ出來得ル限り當該輸送隊ノ前程ニ占位シ同隊前路ノ警戒掃蕩ニ任ズルモノトス

(二) 其他ノ警戒艦ハ入列ハ豫定通り

(三) 警戒艦ハ分屬輸送隊ノ口点通過ヲ了解セ警戒隊指揮官ニ我列外ニ出ヅルヲ報告シ所屬輸送隊ニ入列ス

(終)

93

別紙



機密水雷部隊命令作第五號

昭和十八年七月十九日

49/70

要旨消後燒却

水雷部隊指揮官 木村 昌 福

水雷部隊命令

機密北方部隊命令作第二號。號ニ依ルケル号第二期
作戰ハ機密水雷部隊命令作第四號中左ノ通改允外
之ニ據リ實施ス

一 第一軍隊區分中警戒驅逐隊(指揮官二十一驅司令)ヲ第

一 警戒隊(若葉、初霜、長波指揮官二十一驅司令)第一二

警戒隊(島風、五月雨指揮官島風驅逐艦長)ニ區分ス

二 各隊(艦)ノ行動中

(一)ノ項ヲ削除

(12) (11)項出港順序 阿武隈木曾日本丸國後。驅九驅

響五月雨長波

(11) 響出港ヨリ鳴神島附近ヲ予定航路ヲ附図第一改訂

ニ改ム

(10) 補給隊ノ分離時機ヲ21日一三〇ト予定シ第一第二待機

線ヲ附図第一改訂)所定ノ通改ム

(9) 補給隊ノ第一待機線ニ於テ先待機行動ハ收容部隊鳴神

着座ヲ受信スルカ或ハ特令アルマテ出港得ル限リ所定ノ往

復運動(成ル可ク速力十二節)ヲ繰返シタル後第二待機線

ニ移動ス(第三待機線着時機標準ハ着電受信セル場合ハ

鳴神港着期日ニ二日ヲ加(タル日ノ〇六〇マテト予定ス)ニ改ム

三、警戒航行序列

(1) 第一第二第三警戒航行序列ニ於テ右側列ノ占位順序

94

ヲ前方ヨリ朝雲、薄雲、響音、五月雨、長波ニ改ム

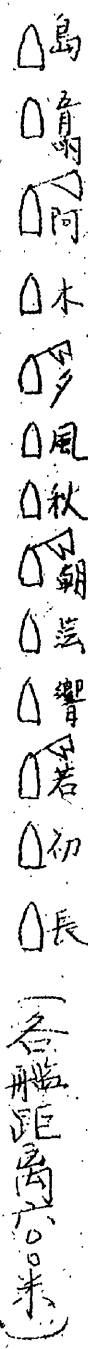
(四) 第一、第二、第三警戒航行序列ニ左右列互ニ位置ヲ入レ換ヘ

タル序列ヲ各警戒航行序列別法ト呼稱シ信号(電話)

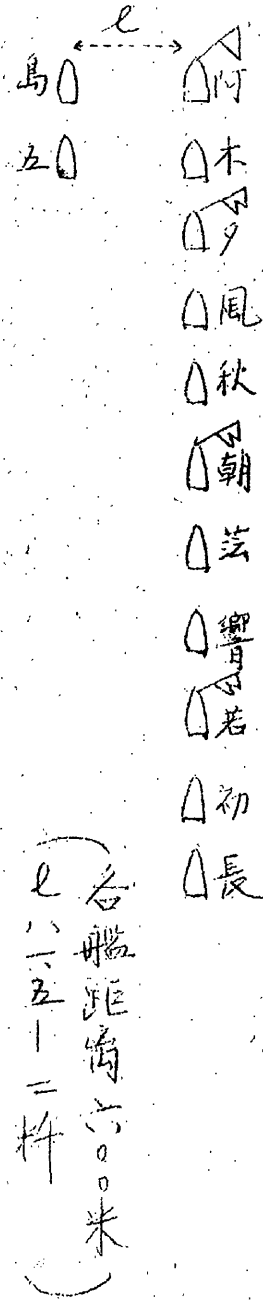
ニ番号旗(別法)ヲ附加ス

(三) 第四、第五警戒航行序列ヲ左ノ通改ム

(一) 第四警戒航行序列



(二) 第五警戒航行序列 (視界三料以上ノ場合)



四) 哨戒配備機関待機標準中左ノ通改ム

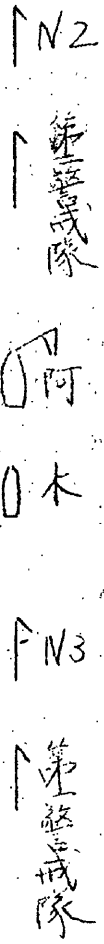
(一) 自乙日 〇〇〇〇 至 〇九〇〇 〇 自乙日 〇〇〇〇 至 〇七〇〇

(二) 自乙日 〇九〇〇 至 キスカ ↓ニ五〇里 〇 自乙日 〇七〇〇 至 キスカ

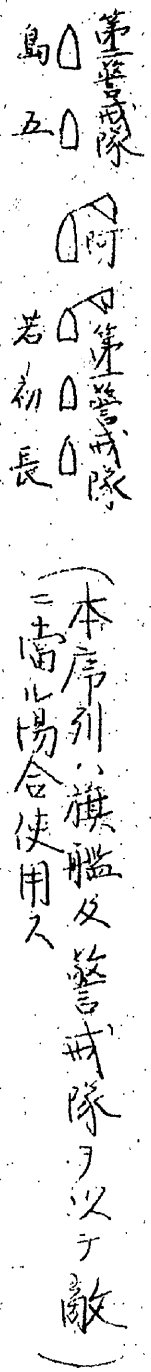
↓ニ五〇里

五) 戦斗序列

(一) 第一戦斗序列ヲ左ノ通改ム

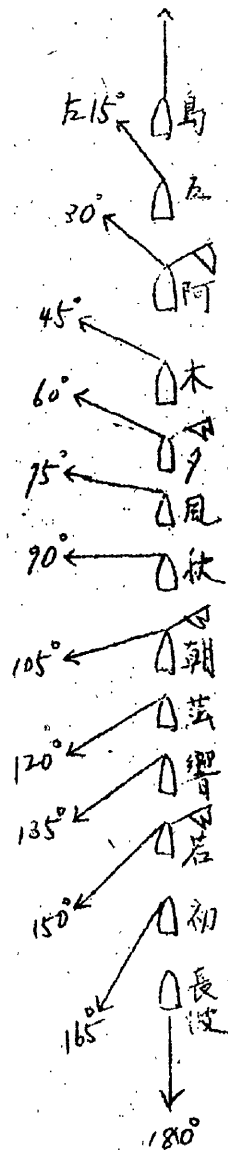


(二) 第三戦斗序列ヲ左ノ通定メ之ヲ追加ス



六第六、六對空對潜戦ハ、項散用隊形制形運動ニ左ヲ追
加ス

鳴神島附近ニ於テ地形ノ關係上一縱列ヨリ兩側ニ轉舵不可能
ナル場合「散番」(R)ヲ使用シ左ノ如ク運動散用隊形ヲ制形ス
「散番」ノ一例



七第八補給ノ項中

右側列ノ補給順序ヲ長波 五月雨 響 薄雲 朝霞ニ改ム
(一部補給ノ場合ハ響 薄雲ノ順)
(四) 受給艦ノ交代法中響 薄雲 朝霞 三艦トアルヲ長波

五月兩 御旨ノ三艦ニ改ム

(ハ) 第八ノ二項收容部隊ニ日ヲ変更シ引込シ補給ヲ行フ場合
補給予定時刻 且之(55分)頃トアルヲ 第一待機線上ニ於
テ補給隊ト會合シ上補給ヲ實施スレニ改ム

八 航海保安ニ関スル注意事項中

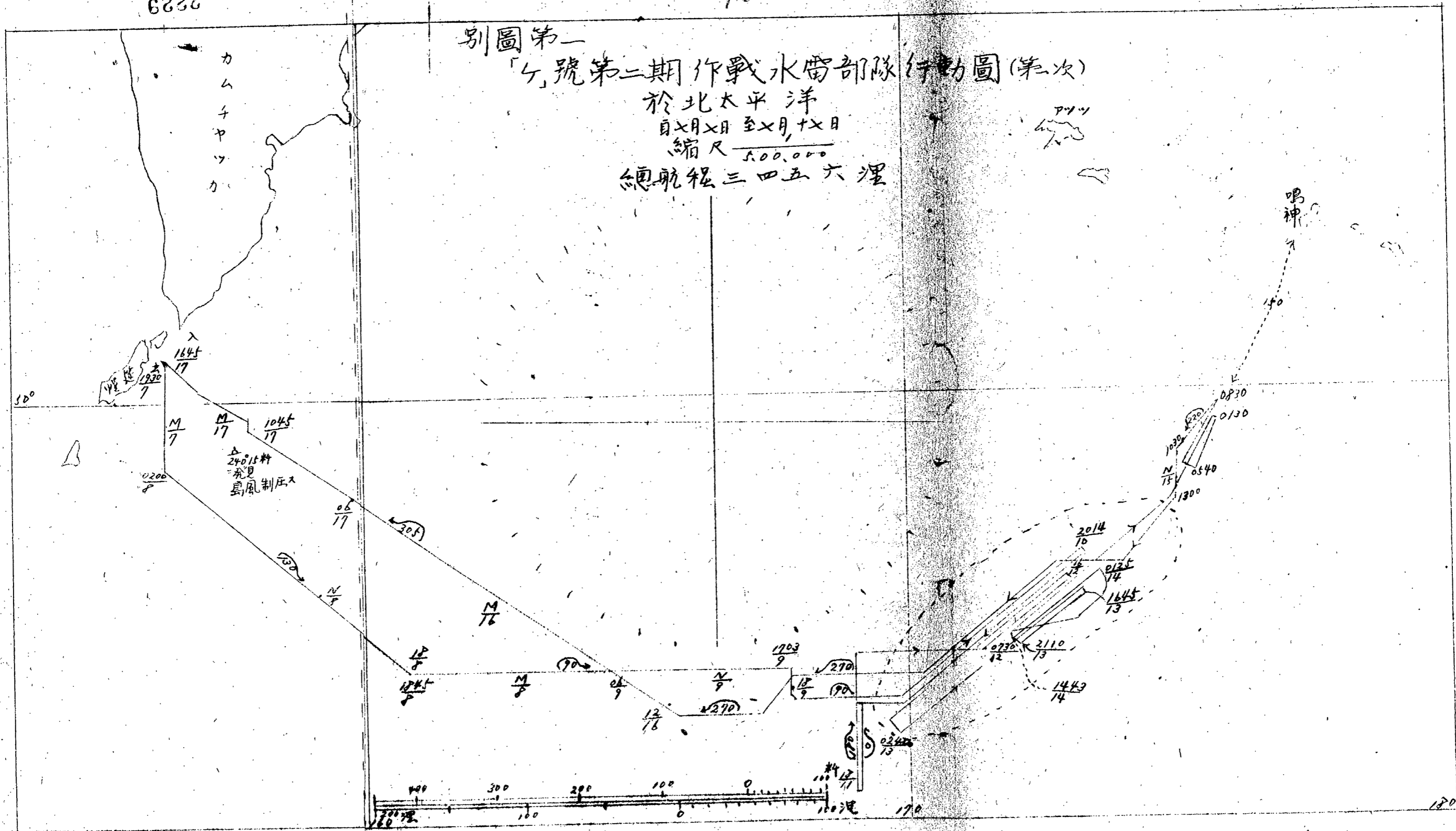
(イ) 第一ノ二項(航海保安)ノ霧中浮標曳索長 驅逐艦三〇〇
米トアルヲ二〇〇米ニ改ム

(ロ) 第一ノ項ノ二項(航海保安)ニ(ハ)項トシテ左ヲ追加ス

第一第二第三警戒航行序列ニ於テ反轉或ハ九〇度ヲ超ユ
ル方向変換ヲ行フ場合各列毎ニ方向変換ヲ行ヒ方向変換
終了時左右列カ方向変換前ト互ニ交換ナル如ク運動ヲ行
ハシル場合信号ハ「方」番「或」方「」番「等」ヲ使用ス

(終)

別圖第一
 4, 號第二期作戰水雷部隊行動圖(第次)
 於北太平洋
 自×月×日至×月×日
 縮尺 1:500,000
 總航程三四五六哩



2230

94 97

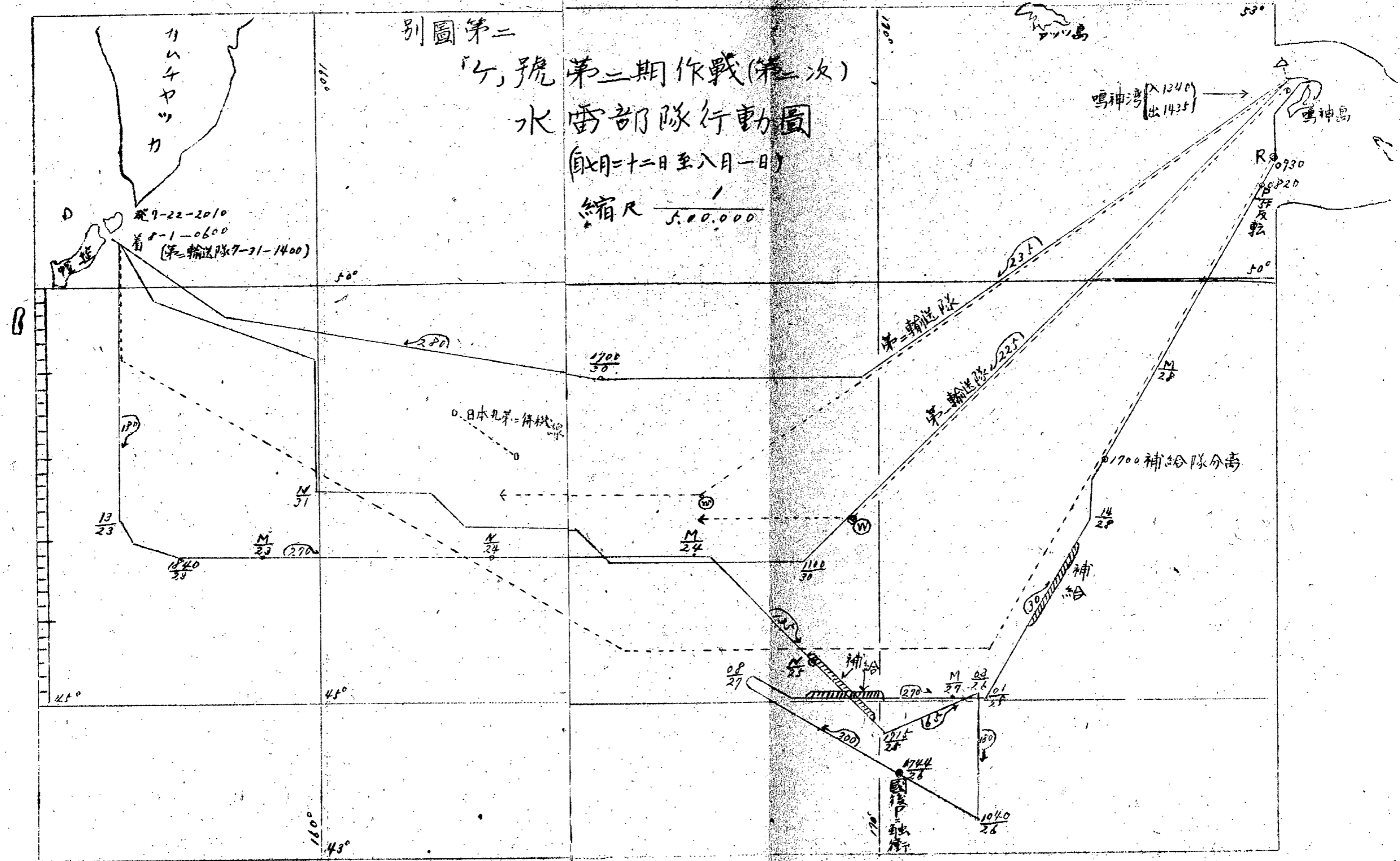
別圖第二

「4」號第二期作戰(第2次)

水雷部隊行動圖

(自七月十二日至八月一日)

縮尺 1/500,000



98

別紙(二)



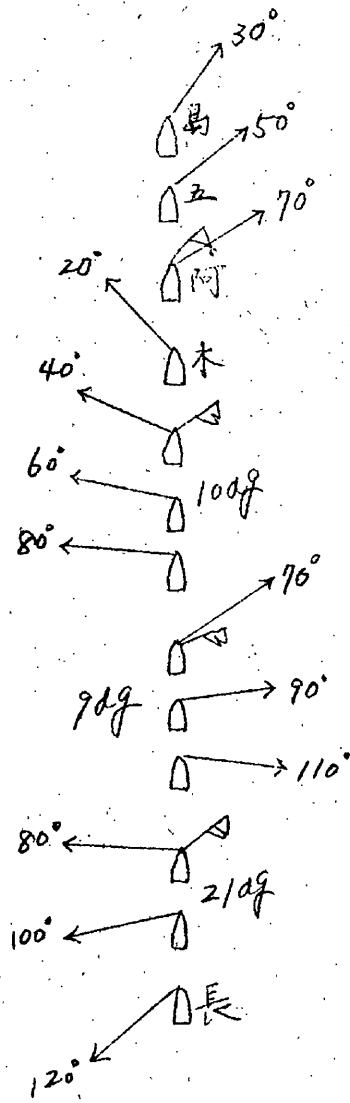
一水戰機密第八號ノ一五
昭和十八年七月二十二日

第一水雷戰隊司令部

今號第二期作戰中、艦隊區分一時左ノ通改ム

四番隊	三番隊	二番隊	一番隊	○番隊	隊番號
若菜初霜	朝雲薄雲	夕雲風雲	欠	阿武隈木曾	一小隊
長波	響	秋雲		島風五月雨	二小队

一、第四警戒航行序列ヨリ散界隊形ヲ制ル場合ノ運動要領



二、第五警戒航行序列ヨリ散界隊形ヲ制ル場合ノ運動要領
島風五月雨ハ阿武隈ニ對シ基準針路方向ニ於テ夫々四料
及二料ニ占位スル如ク増速進出

(終)

二	一			日
峽海遊艦	峽海遊艦	二七四水	三三〇 峽海遊艦	所在
05.23.90 南霧	40.88 5.0 南晴			午前時
	40.94 2.0 東晴			日没時
隊	艦	五	第	任一
隊	部	方	北	務般
戰	作	号	止	任特別
	歸着 一七〇長夜艦遊 海峽歸着			主要行動
作戰準備	阿武隈秋雲(南口) 若葉五月雨朝雲北 逆探試験、為本勤			主要作業
				記 事

五、作戰經過概要

2231

五	四	三
峽海遊艦	$51^{\circ}-27.5'N$ $155^{\circ}-21'E$	峽海遊艦
10.9.5 70 北 晨		2. 25 160 東 晨
10.8.0 40 北 晨		2. 25 120 南 晨
隊 艦	雷 水	一 隊
隊	部	水
艦	作	上
<p>一〇〇島風艦遊 歸着</p>	<p>〇六三五水雷部隊欠 長波才ホフク海ニ 出勤訓練 一六五五錨地歸投</p>	
<p>◎機密北方部隊命令作 第廿六号ニ依ル上号 第二期作戦ノ編制 トレリ水雷部隊ニ 本曾島風ヲ加フ ◎出撃準備 不要物件陸揚 作戦打合</p>	<p>一 偏洋射撃訓練 二 曳航補給訓練 三 襲撃教練 砲</p>	<p>作戦準備</p>

9332

十	九	八
	46°-36'N 166°-25'E	47°-41.7'N 159°-11'N
	10. 11.0 3.0 北西曇	5. 9.0 10.0 西霧曇
	又 9.5 6.0 南霧曇	5. 9.5 7.0 西曇
隊	艦	五 第
隊	部	方 北
戦	作	号 上
<p>二〇〇 日本丸國後 ヲ分離セルム 一七〇 粟田丸ヲ分離 セルム 二〇〇 小島部隊交轉 十一日、突入、見合 ハス</p>		
<p>二〇二五 針路 二三〇度 速力 二〇節 一時待機ス</p>	<p>〇二三〇 針路 五〇度 西〇 速力 一四五節 (補給速力 十節) 〇三三〇 燃料補給 一五〇〇 (度給艦全艦) 〇四四五 阿武隈航故障 復旧 〇五三〇 燃料補給</p>	<p>〇二〇〇 針路 一三〇度 八四五 針路 九〇度 速力 一四五節 三三〇 阿武隈航故障</p>
<p>視界良好 十日及 十一日 霧発生、見合 ナレ</p>		

					十
		47°-283'N 171°-56.5'E			66°-125'N 168°-49'E
		10. 9.14.0 南曇			10. 10.9.7.0 東曇
		5. 9.29.5 南曇			2. 8.7.9.5 東曇
	隊	戰	雷	水	一
	隊	戰	部	雷	水
	戰		作	手	5
		一五〇〇 五〇〇 分離セム 互轉			補給
		一五〇〇 針路ニ三〇度速力 十四節トナレ 互轉南下ス			〇五四〇 日本丸ヲ三〇度 ニ〇料ニ奔見 〇五五五 速力一四節 〇七一〇 日本丸 團後 ヲ合同ス 〇八三〇 補給開始全艦 速力十一節 三三七 補給針路 八〇度トナレ 八〇〇 補給終了 八五五 針路〇度速力 土節
		一〇〇〇 若葉 初霜 薄雲 擲着補給			〇五〇〇 哨戒部隊ノ 監視視線ニル監視 トナル 敵哨戒機ニ 奔見セシ 敵飛行機 六機ノ爆撃ヲ受テ 監視機一隻沈没 一隻大破又兩架敵 ノ西方及北西方ニ射 スル哨戒ヲ嚴ナラシメ 結果トナル

0232

十五	十四	十三
48°-53' N 173°-52' E	47°-34' N 172°-14' N	47°-295' N 171°-495' E
10. 9.7 10.0 西曇	2. 10.0 12.0 南曇	10. 10.4 11.0 南曇
0.1 10.0 145 西曇	1. 10.5 85 西曇	5. 9.9 16.0 南曇
隊	艇	五
隊	部	方
戦	作	手

<p>〇二五 日本丸ヲ発見 合同 〇二八 反轉補給 二〇〇 日本丸分離</p>	<p>〇二四 五突入ヲ見合ス 二四五 再度突入ニ 決シ北トス</p>	<p>〇二五 日本丸ヲ発見 合同 〇二八 反轉補給 二〇〇 日本丸分離</p>
<p>〇八二〇 行動中止 (速力二四節針路 二三〇度) 曳返シノ歸投行 勤ニ移ル</p>	<p>〇二四 〇速力一八節 〇三三〇 針路三三〇度 〇四三六 反轉針路三三〇 度 〇五四 針路三三〇度 〇八二〇 針路二二〇度 速力二四節</p>	<p>補給(全艦艇) 針路五〇度速力一五節 〇〇 針路五〇度 速力一五節 二四五 針路三三〇度 二二〇 針路五〇度 速力二二節</p>
		<p>〇本日航路附近 視界極メテ良好 ナリニモ敵基地 艦艇極メテ開散 ナリ</p>

九	十	十一	十二
海運艦	10. 265 40 北東半晴入港	八五〇 49°-52'N 157°-52'E	46°-29'N 162°-42'E
28.30 東曇	10. 148. 3.0 東曇	10. 10.3 12.5 西曇	5. 1038.0 西曇
23.85 東霧		10. 12.5 2.0 東曇	0. 1118 12.5 西曇
隊 隊 雷 水 一 第			
隊 隊 部 雷 水			
隊 隊 作 手 上			
	歸着 島風補給隊 雨餘、水雷部隊	阿武隈五月兩 海運海峽歸着 八五〇水雷部隊 (阿武隈五月兩)	一〇二〇 阿武隈島風 五月兩先行入
十二節三分待機去 擊被害ナシ 運海峽ニ果襲攻 〇六三〇敵五機見	二時間待機トシ 整備ニ從事セシム 待機八十三節 ◎水雷部隊機関	一〇四五北緯四九度三 分東經一五八度三 分ニ浮上潜水艦ヲ見 島風ヲ誘置掃蕩 勲風 探信掃蕩爆 雷攻撃ス(效果概確責)	

0732

三	三	三	三	
47°-40'N 156°-35'E	高亮	峽	海	延
13.0 15.0 南曇霧	20 18.5 7.5 南晴	20 14.0 12.0 西曇	10 14.0 2.0 東曇	0.5
14.3 12.5 南曇霧	0.5 9.5 10.0 東曇霧	20 13.0 16.0 西曇	10 11.5 11.0 東曇霧	0.5
	隊	艦	五	第
	隊	部	方	北
	戦	作	予	上

午後國後連絡ヲ 失ヒ隊列ヲ離ル	二〇〇水雷部隊ノ 多摩ヲ予第二期 作戦ノ多摩延 海峡去撃			
		作戦打合去撃準備	補給並去撃準備	補給並去撃準備
二〇〇 當隊戦斗詳報 ニ依ル	二一八〇 五艦隊長官ハ 將旗ヲ多摩移揚 ニ去港以後濃霧ヲ 連続ス	出撃隊定日ノトコ 二十一日ニ延期セル		

2241 301

102

三七	三六	三五	三四
45°-11'N 168°-48'E	43°-42'N 175°-35'E		46°-49'N 163°-85'E
1.0 15.3 6.5 西南 曇霧	0.2 16.0 8.5 西南 曇霧	0.5 14.0 9.5 西南 曇霧	0.2 14.2 12.0 西南 曇霧
0.5 15.1 0.5 西 曇霧	0.2 16.8 7.5 西 曇霧	0.5 15.0 10.5 西南 曇霧	0.5 14.2 9.5 西南 曇霧

隊 隊 雷 水 一 第

隊 部 雷 水

隊 作 号 上

若菜分離歸投	北緯四度一各東経 二七〇度二五分二秒 國後阿武隈二編衝 續々一八〇七若菜 初霜長波觸衝	霧中警戒航行	霧中警戒航行
二初霜ヲ補給隊ニ編入 若菜八號建ニ歸投 修理也 二二工船司令八島風乘 船員			

2242

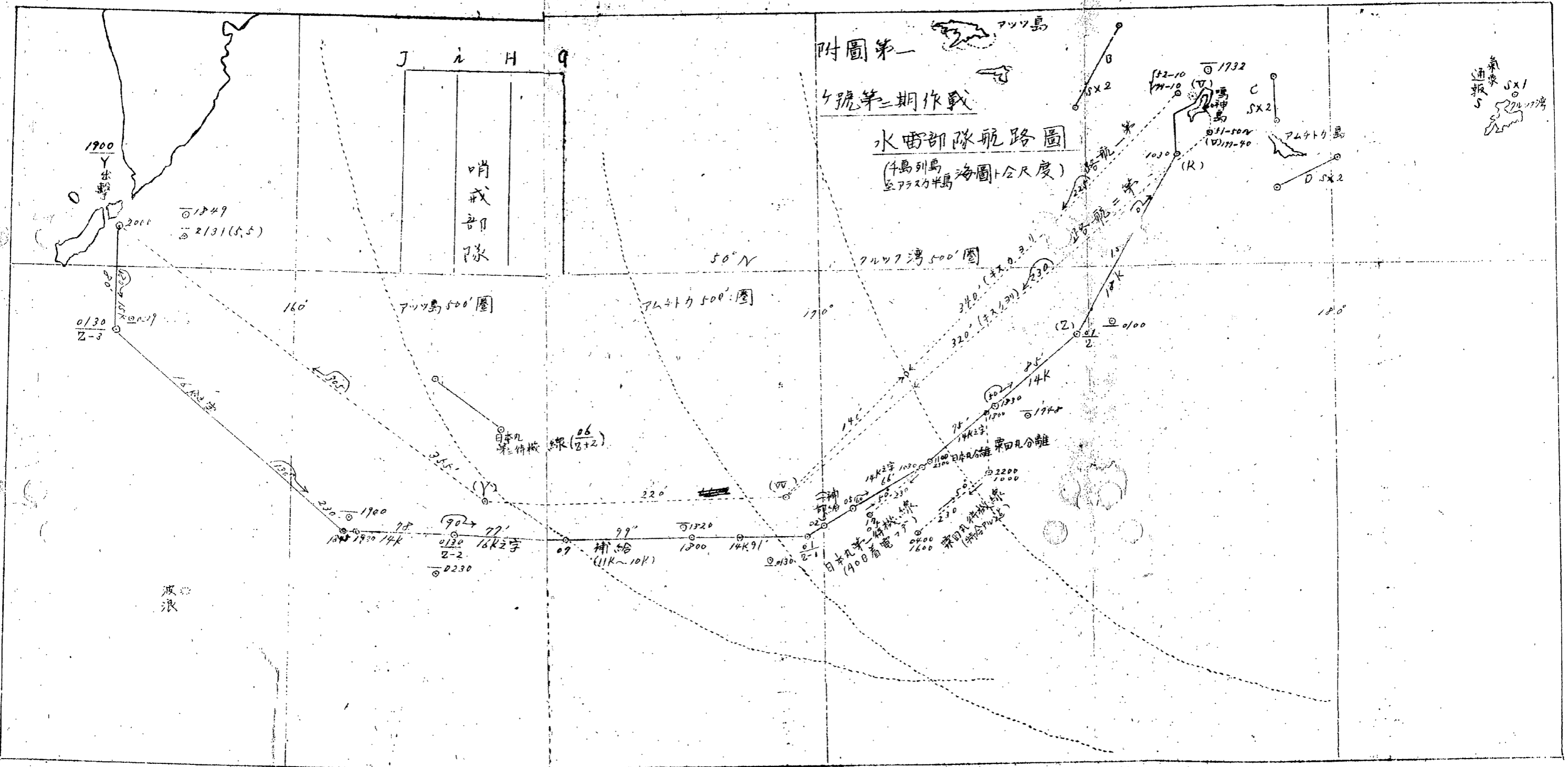
壬	辛	壬	壬
47°-52'N 159°-53'E	46°-45'N 168°-23'E	52°-95'N 177°-373'E	46°-49'N 173°-215'E
10.13.7 105西 墨霧	1.0.13.2 90西 墨霧	0.5 10.4 5.0 西 墨霧	1.0.13.5 45 霧 半前
0.5 12.8 95西 墨霧	0.5 13.2 10.0西 墨霧	0.5 9.7 5.5 西 墨霧	0.5 12.5 10.5 霧 墨

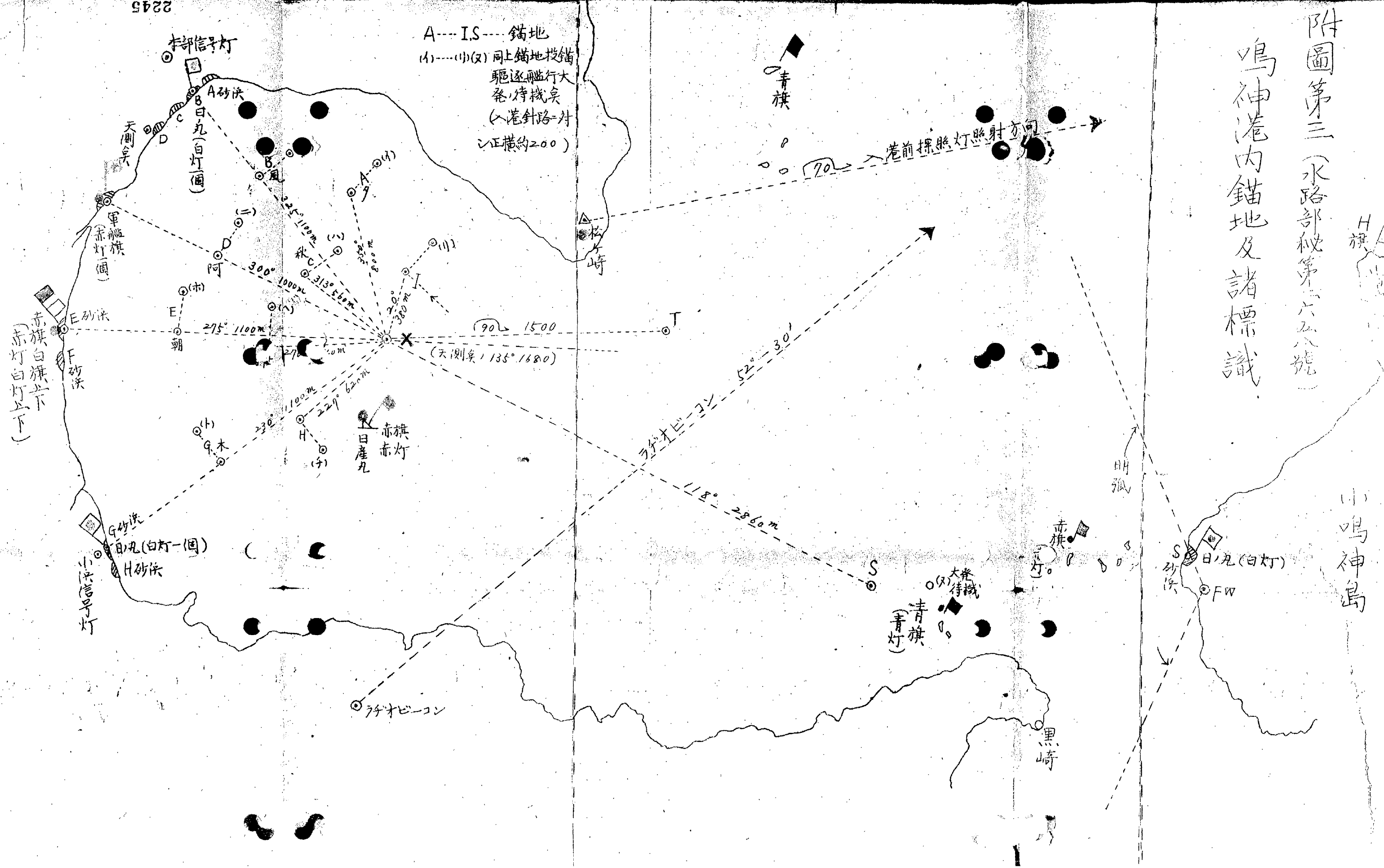
(隊 戦 雷 水 一 第) 隊 艦 五 第
(隊 部 雷 水) 隊 部 方 北

戦 作 手 上

<p>一五五 第三輸送隊 (木曾 9dg 御音) 第 警戒隊 (島風 五島) 幌延着</p>	<p>0.5.0.0 若菜 幌延 歸投</p>	<p>一三四。鳴神港入口 一四三。第一輸送隊 (木曾 島風 五月兩 9dg (白雲丸) 西三五 第二輸送隊 (阿武隈 115 長波) 去港</p>	<p>鳴神島 向ヶ霧 中警戒航行</p>
		<p>在鳴神島陸海軍 兵力全員收着</p>	

(終)

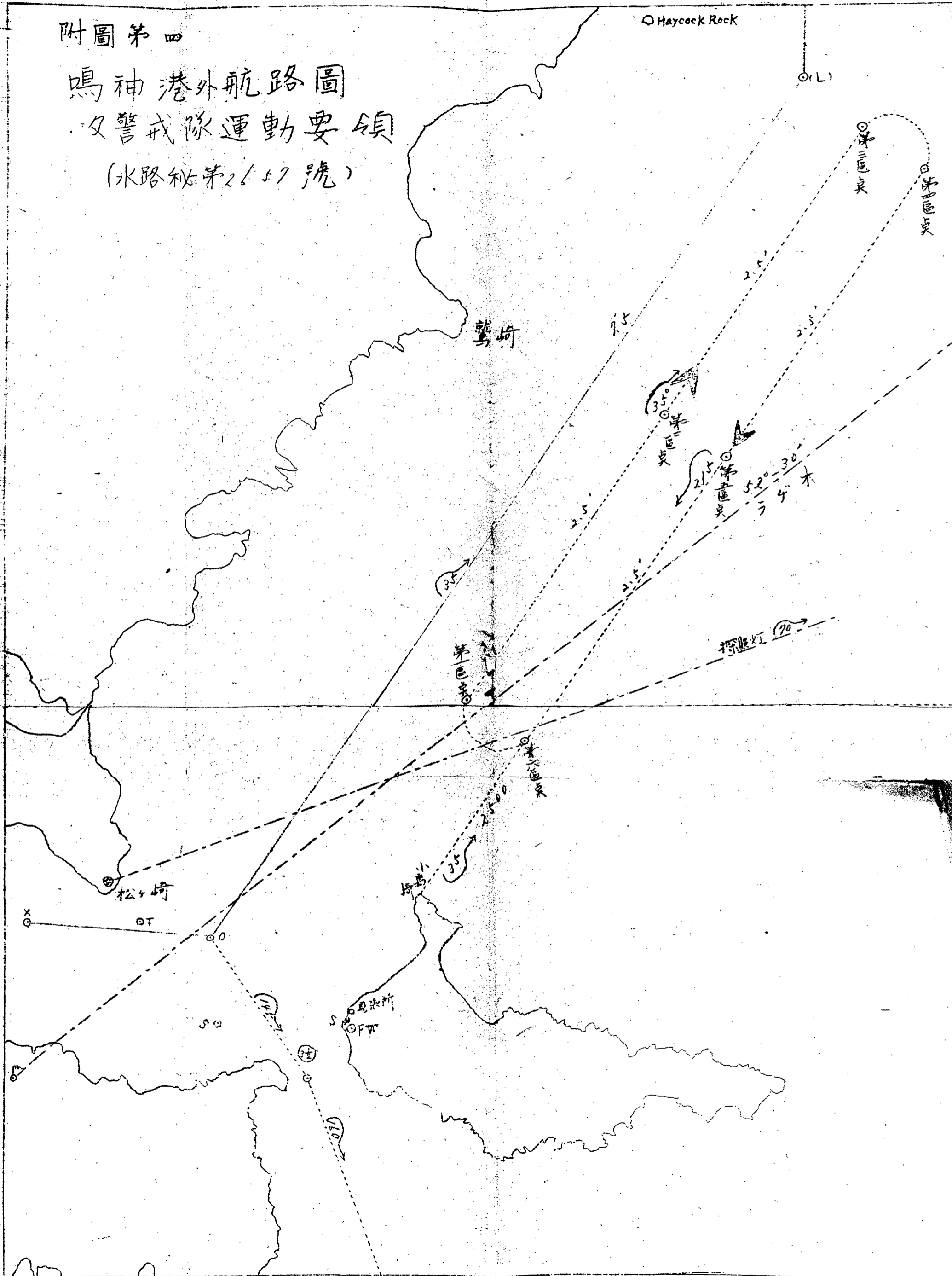




附圖第三 (水路部秘第六五八號)
 鳴神港内錨地及諸標識

附圖第四

鳴神港外航路圖
及警戒隊運動要領
(水路秘第2657號)

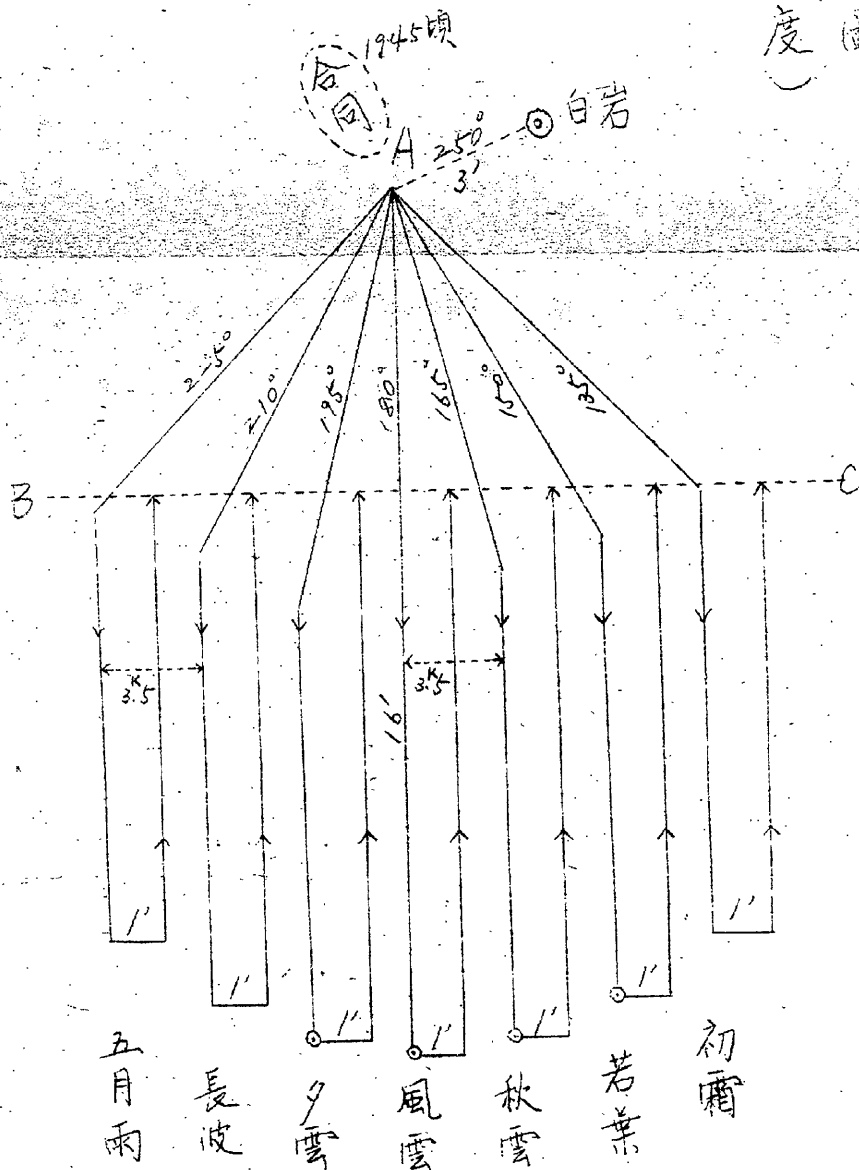
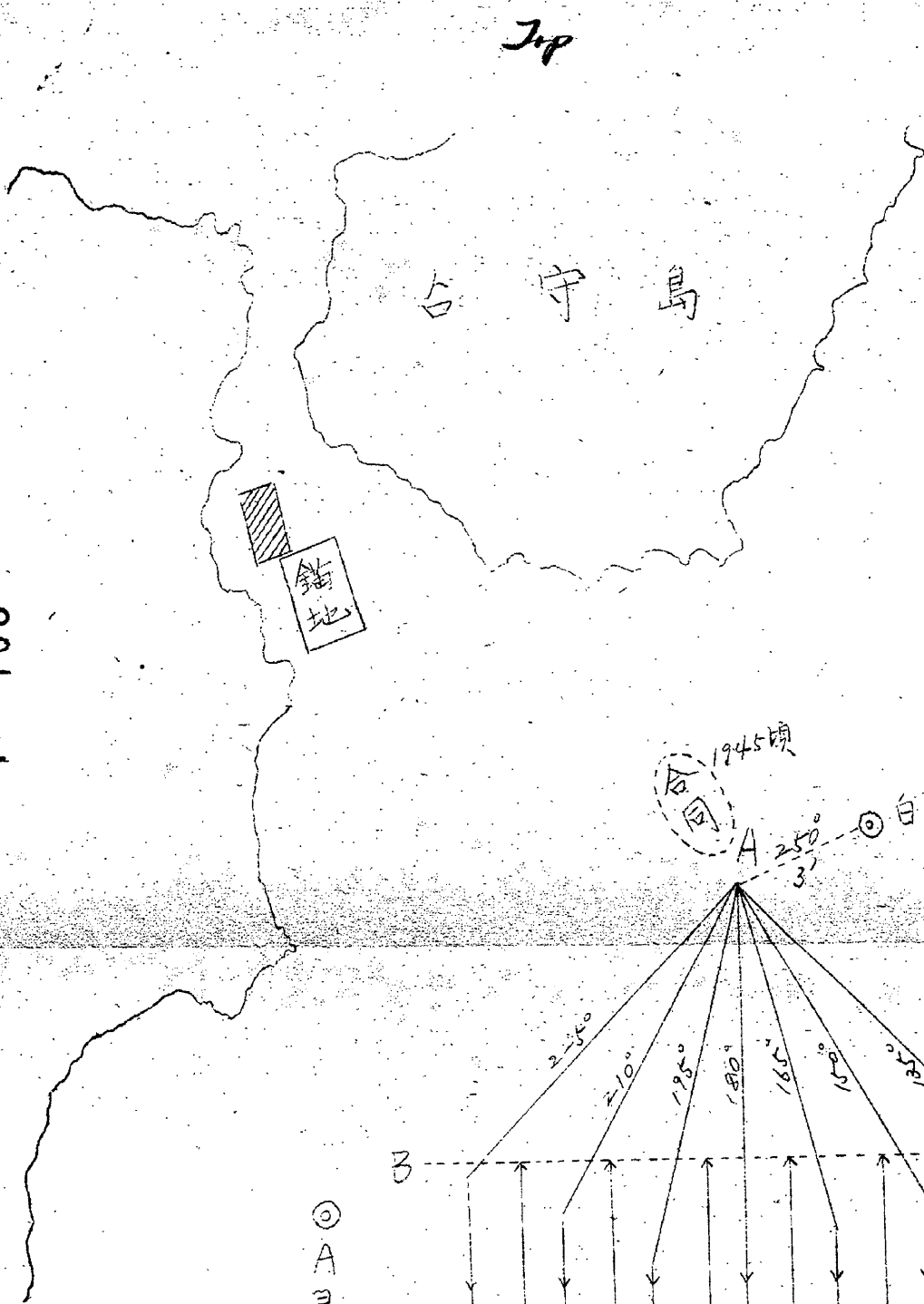


2246

附圖第五

掃蕩隊掃蕩要領圖
 (海圖第一〇三號同尺度)

139
 801



◎ AヨリBC線マテ能航程也

◎ BC線マテ掃蕩止メ

2247